報告第　２　号

令　和　7　年　度

事務事業点検・評価報告書

（令和６年度実施事務事業分）

明日香村教育委員会

目　　次

１　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　点検評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

３　点検評価結果

◆幼小中一貫教育推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

◆学校・地域コミュニティ事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

◆放課後児童健全育成事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

◆学校教育活動支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

◆学校施設整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

◆ＩＣＴ教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

◆児童生徒学力等調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
成果指標（学力）

◆児童生徒体力・運動能力等調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
成果指標（体力）

◆いじめ・不登校対策等生徒指導事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

◆安心して子どもを育てられる環境づくり・・・・・・・・・・・・・・・・２４

◆学校給食の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

■青少年事業
　子どもわくわく教室・あすか通学合宿・・・・・・・・・・・・・・・・２７

　２０歳を祝う会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

■国際理解教育推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

■人権教育推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

■総合型地域スポーツ運営支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

■飛鳥ハーフマラソン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

■社会体育施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

■中央公民館講座・活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

■図書室管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

★文化芸術事業
　芸術文化の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

★発掘調査事業
　文化財の調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０

★保存整備活用事業
　文化財の保存と活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

★飛鳥の魅力発信事業
　明日香村歴史資産の魅力発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６

４　まとめ

◆学校教育について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２

■生涯学習について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３

★文化財について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４

５　学識経験者の知見の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５

１　は　じ　め　に

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

これを受け、明日香村教育委員会は、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たせるよう、教育委員会の活動及び事務の点検評価を行い、報告書を作成しました。

この報告書は、毎年作成し公表していますが、明日香村教育委員会としては、今後も報告書の内容充実に努め、村民に分かりやすいものにするために、必要な検討を加えていくこととしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の検証と改善を図りながら、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2　点検評価について

（1）目　的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条の規定に基づき、明日香村教育委員会がその権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たすことを目的とする。

（2）対象・基準

教育委員会所管の予算事業の中から後述の下記の４つの条件のいずれかに該当する事業を対象として、事業ごとにその継続性・効果性・効率性について基本的な評価を行い、これをもとに今後の方向性として総合評価を行った。

①新規事業
②規模を拡大した事業
③今後の事業継続をするに当たり工夫が必要だと思われる事業
④教育委員が必要と認める事業

（3）評価基準

①基本評価の基準は次のとおりである。

評価基準	評価内容	
継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く・継続すべき事業である
	B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる
	C	・村民等のニーズはあるが、時代の変化に適応しなくなっている部分がある
	D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である
効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている
	B	・一定の成果を挙げている
	C	・一部に対して成果を挙げている
	D	・成果が見られない
効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない
	B	・実施手法は適切である
	C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である
	D	・見直しが必要である

②総合評価の基準は次のとおりである。

総合的な評価・評価基準			
今後の方向性	拡　充	A	十分な事業水準にあり、かつ将来への必要度も高く、今後も拡充が必要
	継　続	B	一定の事業水準にあり、今後も更なる効率化を図りつつも、現在の事業水準を維持
	見直し	C	事業の必要性はあるが、その手法・執行体制等見直しが必要
	廃　止	D	事業を廃止（または休止）

③事務事業点検評価シート

教育委員会が行った事務事業について、点検・評価を行った結果と今後の方向性を記しています。

④事務評価委員の評価について

事務事業の点検及び評価の実施について、その責任の明確化、体制の充実、成果の向上を図るため、学識経験者２名に事務評価委員を委嘱し、教育委員会が点検及び評価した結果についてご意見等をいただきました。

⑤議会報告について

教育委員会において報告書を作成し、村議会に報告します。

（4）結果

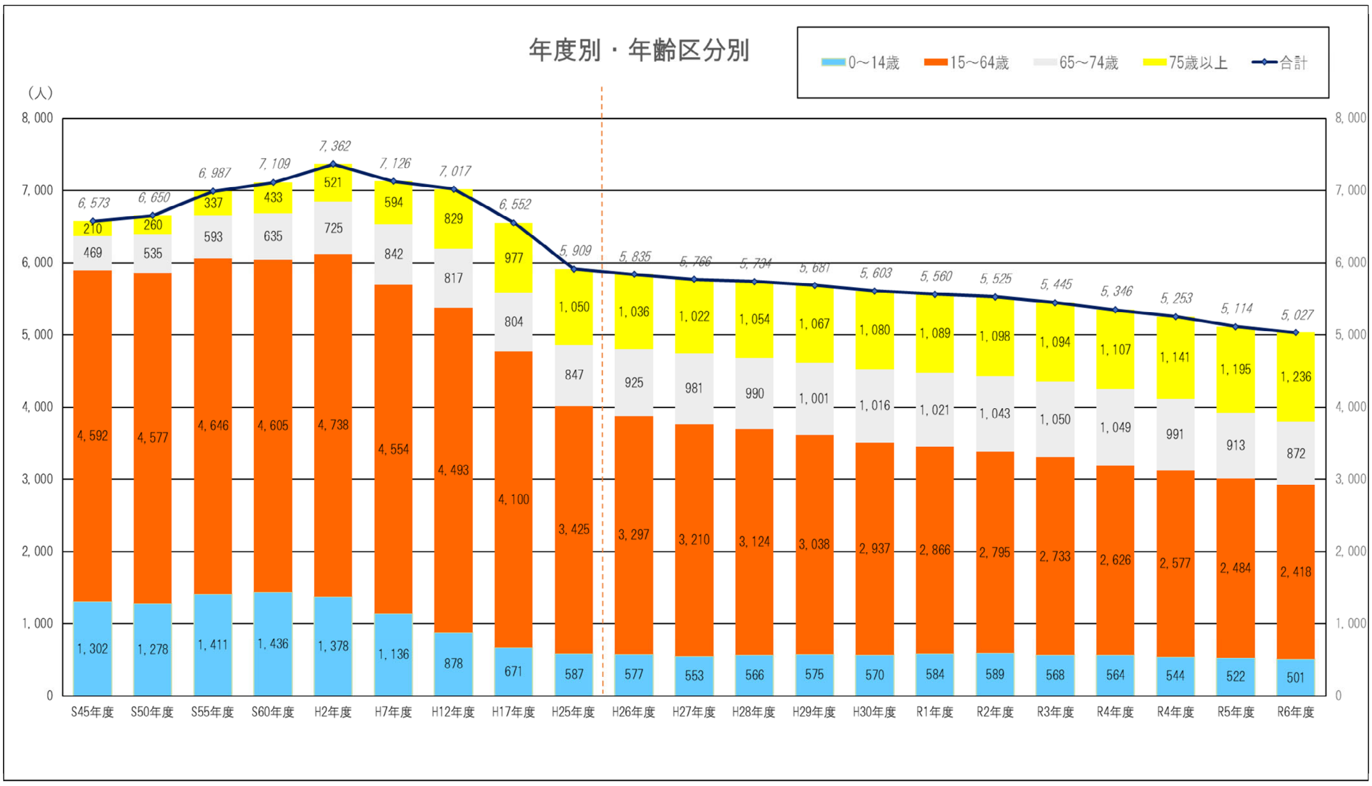
明日香村教育委員会は事業の点検及び評価を行うにあたって、明日香村の学校教育の指導方針に基づき事業を適切に執行しているかを基本に評価を行った。
今回評価を行った事務事業の点検及び評価結果は以下のとおりである。

①実施事業の総合評価（今後の方向性）

評価基準			該当事業計
拡充	A	十分な事業水準にあり、かつ将来への必要度も高く、今後も拡充が必要	1
継続	B	一定の事業水準にあり、今後も更なる効率化を図りつつも、現在の事業水準を維持	１８
見直し	C	事業の必要性はあるが、その手法・執行体制等見直しが必要	5
廃止	D	事業を廃止（または休止）	0
合　計			２４

■明日香村の人口の推移

（単位：人、各年度4月1日現在、出典：住民基本台帳）



村の総人口は平成2年度（7, 362人）をピークに減少を続けているが、児童生徒数は平成27年度以降一定の人数を維持している。

（単位：人、各年度３月31日末現在、出典：住民基本台帳）

年度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
増加数（A＋B）		-71	-67	-32	-53	-80	-44	-35	-80	-105	-101	-128	-84
自然動態	出生	23	18	31	30	23	30	27	20	33	17	23	13
	死亡	104	94	82	83	88	94	73	78	90	110	102	88
	自然増（A）	-81	-76	-51	-53	-65	-64	-46	-58	-57	-93	-79	-75
社会動態	転入	187	165	173	147	148	152	145	139	110	106	65	117
	転出	177	156	154	146	163	132	134	161	158	114	114	126
	社会増（B）	10	9	19	1	-15	20	11	-22	-48	-8	-49	-9

■園児・児童･生徒数の推移

（単位：人、各年度4月1日現在、出典：住民基本台帳）

	保育園			幼稚園			小学校						中学校			
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児 (1年)	7歳児 (2年)	8歳児 (3年)	9歳児 (4年)	10歳児 (5年)	11歳児 (6年)	12歳児 [1年]	13歳児 [2年]	14歳児 [3年]	計
H27	19 〈3〉	29 〈9〉	29 〈10〉	40 (22) 〈18〉	34 (23) 〈11〉	34 (24) 〈9〉	38 (38)	45 (45)	35 (35)	48 (47)	41 (41)	38 (38)	41 (40)	38 (37)	44 (42)	553 (244) (119) (69) (60)
H28	32 〈2〉	23 〈11〉	36 〈13〉	32 (19) 〈12〉	42 (26) 〈16〉	31 (23) 〈9〉	37 (37)	38 (39)	48 (48)	35 (35)	50 (49)	42 (42)	38 (36)	42 (41)	40 (39)	566 (250) (116) (68) (63)
H29	29 〈2〉	36 〈12〉	29 〈15〉	38 (21) 〈14〉	35 (21) 〈12〉	42 (26) 〈16〉	38 (38)	36 (37)	39 (39)	48 (48)	35 (35)	50 (49)	40 (42)	38 (36)	42 (41)	575 (246) (119) (68) (71)
H30	27 〈3〉	31 〈11〉	36 〈14〉	31 (16) 〈15〉	38 (21) 〈15〉	38 (23) 〈13〉	45 (46)	38 (37)	36 (36)	39 (39)	49 (49)	35 (35)	48 (37)	41 (38)	38 (36)	570 (242) (111) (60) (71)
R1	30 〈1〉	31 〈11〉	36 〈15〉	41 (28) 〈14〉	35 (16) 〈18〉	38 (20) 〈15〉	41 (40)	49 (47)	36 (38)	36 (36)	39 (39)	48 (48)	35 (32)	48 (38)	41 (38)	584 (248) (108) (64) (74)
R2	26 〈2〉	32 〈10〉	33 〈13〉	39 (22) 〈15〉	44 (26) 〈18〉	35 (18) 〈18〉	39 (39)	43 (42)	49 (50)	39 (39)	39 (39)	39 (39)	48 (43)	36 (32)	48 (38)	589 (248) (113) (66) (76)
R3	23 〈1〉	29 〈9〉	34 〈19〉	33 (21) 〈11〉	37 (23) 〈12〉	43 (26) 〈17〉	40 (40)	39 (39)	43 (42)	50 (50)	39 (39)	38 (38)	37 (31)	48 (43)	35 (32)	568 (248) (106) (70) (69)
R4	31 〈2〉	25 〈13〉	31 〈14〉	33 (10) 〈20〉	33 (21) 〈12〉	35 (23) 〈11〉	44 (43)	39 (39)	38 (38)	43 (42)	50 (48)	39 (39)	38 (32)	37 (31)	48 (43)	564 (249) (106) (54) (72)
R5	19 〈2〉	36 〈16〉	24 〈12〉	34 (13) 〈16〉	36 (14) 〈17〉	33 (22) 〈11〉	37 (37)	43 (43)	38 (38)	39 (39)	44 (43)	48 (48)	39 (36)	37 (33)	37 (31)	544 (248) (100) (49) (74)
R6	23 〈1〉	20 〈6〉	33 〈19〉	25 (9) 〈13〉	31 (14) 〈13〉	36 (14) 〈18〉	33 (34)	37 (37)	43 (43)	37 (37)	39 (39)	44 (43)	45 (43)	39 (36)	37 (33)	522 (233) (112) (37) (70)

※黒字：住基人口、赤字：保育園児、青字：幼稚園児、緑字：小学生 、橙色：中学生

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	幼小中一貫教育推進事業	費目	事務局費
目　　標	学校独自の特色ある教育活動や先進的な取り組みを促進する。		

（単位：千円）

		Ｒ５		Ｒ６		Ｒ７		Ｒ８		Ｒ９	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
事業費		8,370	6,592	10,400	7,472						
財源内訳	国庫支出金										
	県費	770	210	770	562						
	地方債										
	その他										
	一般財源	7,600	6,382	9,630	6,910						

事業の目的	「郷土に誇りをもち、自らの生き方を切り開くたくましい子どもの育成」、「夢に向かって力強く生きていく意欲ある人づくり」を基本理念とし、家庭・学校・地域が協働して村ぐるみで子どもを育てる環境を創り、12年間を見通した一貫教育のカリキュラムや指導法、連携のあり方を研究・実践する。
事業の内容	推進委員会を中心として、研究課題ごとにプロジェクト研究部会（言語力、英語教育、郷土学習、専門教育の4部会）を構成し研究・実践するとともに、地域が中心となる学校・地域コミュニティ協議会による様々な学校支援活動を年間を通して組織的に取組を進めた。 また、プロジェクト4部会の研究を基本的な授業実践につなぐため、幼小中教員が混在グループを作り、研究授業の協議を重ねた。 ・基礎的な言語力の浸透による学力の充実・学習規律・生活習慣の徹底による落ち着いた学校生活 ・英語教育、郷土学習、専門教育の充実・推進 ・学校・地域コミュニティによる学校支援、あいさつ運動の推進
成　　果	小学校教員と中学校教員の相互乗り入れ授業により、小学校高学年における専門教育を充実させるとともに、学級担任制から教科担任制への円滑な移行が図れるよう取り組めた。また、幼小中一貫教育全体の第4ステージ（令和5年度～令和8年度）における研究テーマを「『問題解決能力』の向上を目指して～」と設定し、実践研究を継続した。特に、幼小中教員の混在するグループによる授業研究に力を入れた。また奈良県読解力向上プロジェクトにも参加し、リーディングスキルの視点を取り入れ汎用的基礎読解力の向上を目指した授業改善を進めている。 学校運営協議会の開催により、学校教育に対して保護者・地域が積極的に参画・協働していただくことができた。 明日香郷土学習副読本（前・中期用）の改訂を行い、郷土学習プログラムVersion３へアップデートを行った。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	幼小中の教職員が一斉に集まって行う合同研修を通してこどもの発達段階に応じた指導法を互いに研修することができ、こども理解につながっている。 職員の働き方改革の観点からは、会議の規模縮小や、研修会等の運営方法について検討が必要である。 １２年を通して指導する中で、こどもの変化として表に現れにくい部分が多い。発信する力、表現する力に注力していく必要を感じる。	
総合評価	評価	今後の方向性
	B	教育内容の質的向上、教員の専門性強化と連携促進、地域社会との連携強化、そして地域文化の継承という多岐にわたる側面から取り組み、幼小中一貫教育への注力や、教員の相互乗り入れ授業等の取り組みができている。

評価委員の意見	これらの取り組みは、児童生徒の学力向上、地域との連携強化、そして地域に根ざした教育の推進という多岐にわたる側面で成果を上げていると評価できます。 今後は、それぞれの取り組みが児童生徒にどのような具体的な変化をもたらしたのかを、より定量的なデータや、児童生徒・保護者・教員の具体的な声などを交えて示すことで、さらに評価の深まりと説得力が増すと考えられます。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	学校・地域コミュニティ事業	費目	事務局費
目　　標	地域との協働による教育活動を通じて、児童生徒の社会性や協調性を育む。		

（単位：千円）

		Ｒ５		Ｒ６		Ｒ７		Ｒ８		Ｒ９	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
事業費		4,830	3,657	4,940	4,206						
財源内訳	国庫支出金										
	県費	600	504	600	485						
	地方債										
	その他	770		770							
	一般財源	3,460	3,153	3,570	3,721						

事業の目的	学校(園)運営に関して保護者及び地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより学校(園)と保護者、地域住民の信頼関係を深め一体となって学校運営の改善や幼児・児童・生徒の健全育成に取り組む。
事業の内容	年４回の学校運営協議会を開催し、学校(園)の現状を理解・共有し、課題解決に向けて取り組んだ。令和６年度は食育の視点から朝食を食べることの大切さにフォーカスし、実施したアンケート結果を保護者にフィードバックすることでその啓発とした。 学校地域コミュニティ協議会と連携し、地域ぐるみの朝のあいさつ運動でこどもと地域住民の距離を縮める取組とした。またボランティアによる学校(園)への支援活動を行った。内容としては以下の通り。 幼稚園（草刈り,栽培、おやつ作り、雑巾づくり、読み聞かせ、絵本の部屋整備）小学校（草刈り、栽培、図書室支援、家庭科実習、読み聞かせ）中学校（草刈り、図書室支援）
成　　果	朝食アンケートで就寝・起床時間と朝食、朝食摂取の有無と登校後のだるさの関係をクロス集し保護者にフィードバックすることで朝食に対する意識向上につなげることができた。 学校(園)への協力ボランティアの登録者数が１６５名、それぞれの立場から支援していただくことができた。また、子どもたちからボランティア協力者に向けての感謝を伝える会や礼状作成の取組を通して、地域の大人とのつながりを意識することができ、双方にとって有意義な活動となった。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	幼稚園、小学校、中学校を一つの学校運営協議会で携わることができ一貫教育を進める上でも効率が良い。それぞれの学校現場から見えてくる課題に対して、すぐに対応できる連絡体制を構築するために、地域学校協働活動推進員の活動拠点となる場所の確保が必要と思われる。 幼小中で行っている郷土学習に世界遺産学習の視点から進めていく必要性を感じており、学校運営協議会の立場でできる事柄を学校と連携をとりながら整理し提供することで推し進めたい。

	評価	今後の方向性
総合評価	B	児童生徒の生活習慣改善として、具体的な生活習慣が子どもの健康や学習にどう影響するかを実感し、改善への意識を高めることができた。また、地域連携については学校（園）協力ボランティアが165名の登録されており、地域住民から教育活動に積極的に支援してもらえた。

評価委員の意見	子どもの健全な成長を支援すると同時に、学校と地域が連携して子育て・子育ちを支えるコミュニティを形成するという、地域コミュニティ事業の目的を達成する上で非常に重要な役割を果たせていると感じます。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	放課後児童健全育成事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	児童の参加率	単位	目標	50	50	50	60	60
		%	実績	30.6	37.4			
式	1日あたりの年間平均利用者数　例：5,000名÷260日　19.23名/日 年間参加率　　例：19.23名/日÷45名×100%　42.7%							
説明	年間延べ利用人数を年間の開所日数で割ります。 1日あたりの年間平均利用者数を、年間の平均在籍児童数で割ります。							

事業の目的	子育て世代に対し、安心して子供を産み、育てられる環境づくりや経済的支援を行うとともに、学校。保護者・地域が連携し、それぞれの役割を適切に果たしながら一体となってこどもを育てようとする心を培う。
事業の内容	就労等の理由により、保護者が昼間家庭にいない小学生を対象に、安心安全で、適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を保護者の子育て及び仕事の両立を支援する。 ・通年利用：45人、夏期のみ利用：5人 ・開所日時：平日（月曜～金曜）　授業終了後～19時 　　　　　　土曜日・長期休業　7時30分～19時
成　　果	令和2年度から5年度にかけての利用者数の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響が主な要因 そして、令和6年度に利用者数が回復したのは、コロナ禍からの日常回帰に加え、新入生および高学年の利用者が増加したことや放課後児童クラブの支援単位を2クラスに増やし、さらに土曜日開所を再開したことで、保護者の皆様がこれまで以上に安心して就労できる環境を整備することができた。 また、児童の発達段階に合わせたきめ細やかな環境整備を行った結果、子どもたちが落ち着いて活動できる、質の高い生活の場を提供することができた。 今後も、子どもたちが自ら進んで放課後児童クラブに通い続けられるよう、遊びや生活の場の提供方法を見直し、保護者、行政との連携をさらに強化する必要がある。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性（事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性（成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性（実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	放課後児童クラブの運営において、以下の点が主な課題。 ■常駐職員の安定的な確保：お預かりする児童の数に対し、常駐職員の安定的な確保が引き続き必要。特に、経験豊富な人材の確保と定着が課題。 ■育成支援内容の継続的改善：職場内での情報共有と事例検討の機会をさらに充実させ、育成支援の内容を継続的に改善していく必要がある。これにより、児童一人ひとりに寄り添った質の高い支援を目指す。 支援員の資質向上：支援員の有資格者数を増加させるとともに、各種研修会への積極的な参加を促すことで、支援員全体の資質向上を図っていく必要がある。

総合評価	評価	今後の方向性
	B	共働き家庭の増加という社会情勢に対応し、具体的なサービス拡充によって保護者の安心感を高め、子どもの発達を考慮した環境を提供ができている。

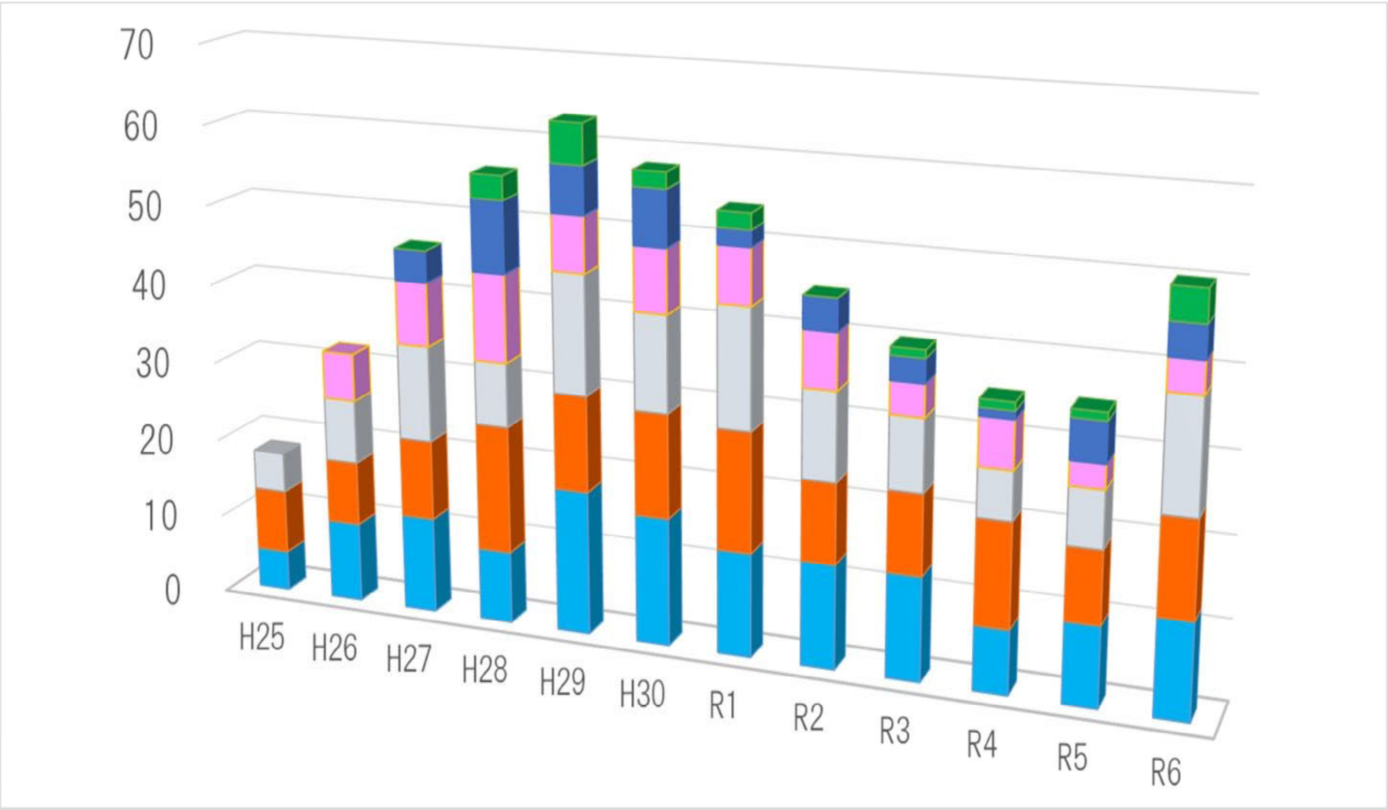
評価委員の意見	放課後児童クラブが単なる預かりの場ではなく、子どもたちの健やかな成長を支え、保護者の就労と生活を支援する、地域に不可欠なインフラとして機能していることを明確に示しています。特に、保護者のニーズへの対応と、子どもたちの居場所としての質の向上を両立するよう運営されている。。 今後も、これらの取り組みが継続され、地域の子育て支援の中核としての役割をさらに発展させていくことを期待します。

■放課後児童クラブ利用者数の推移

（単位：人、各年度４月１日現在、出典：明日香村教育推進課）

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
６年	0	0	0	3	5	2	2	0	1	1	1	4
						(1)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)
５年	0	0	4	9	6	7	2	4	3	1	5	4
						(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)
４年	0	6	8	11	7	8	7	7	4	6	3	4
		(2)		(1)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)
３年	5	8	12	8	15	12	15	11	9	6	7	14
			(2)	(1)	(3)	(3)	(1)	(0)		(2)	(1)	(4)
２年	8	8	10	16	12	13	15	10	10	13	9	12
		(1)	(1)	(3)	(2)	(3)	(1)	(0)	(1)	(0)	(1)	(3)
１年	5	10	12	9	18	16	13	13	13	8	10	12
			(1)	(1)	(6)	(2)	(1)	(0)	(1)	(8)	(0)	(1)
計	18	32	46	56	63	58	54	45	40	35	35	50
		(3)	(4)	(6)	(12)	(11)	(6)	(0)	(3)	(10)	(3)	(11)

（　）は、夏期利用者　※R2年度は、小学校の夏期休暇短縮に伴い休所。



事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	学校教育活動支援事業	費目	小学校費、中学校費
目　標	個に応じたきめ細やかな指導を可能にするための支援を行う。 多様な学習機会を提供し、児童生徒の興味関心や探求心を育む。		

		R５		R６		R７		R８		R９	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
事業費		40, 930	39, 422	64, 700	57, 275						
財源内訳	国庫支出金										
	県費			1, 070	1, 070						
	地方債	40, 900	39, 000	42, 200	42, 200						
	その他										
	一般財源	30	422	21, 430	14, 005						

事業の目的

12年間の一貫した教育課程（幼小中一貫教育）により、自ら考え、取り組み、学びを深める子どもの育成をめざす。
教員の専門性向上と多様な教育ニーズへの対応、および教員の業務負担軽減を目的とする。
・教科指導の充実と専門性の確保
・多様な学習ニーズへの対応と特別支援教育の充実
・教員の業務負担軽減と教育環境の改善

事業の内容

質の高い教育を提供し、すべての児童生徒が安心して学び、成長できる学校環境を構築するため

教科充実・担任講師の配置	特定の教科の専門性を持つ教員や、担任として学級運営を担う教員を配置することで、授業の質の向上と安定した学級経営を支援
学校教育指導主事の配置	学校への専門的な指導・助言を行う指導主事を配置し、教育課程の編成、学習指導、生徒指導など、学校運営全般にわたる教育の質の向上をサポート
外国語指導助手の配置	外国語（主に英語）の専門家を配置し、ネイティブスピーカーならではの指導や国際理解教育を推進
通級指導員の配置	通常学級に在籍しながらも、発達上の課題などにより特別な指導を必要とする児童生徒に対し、個別または少人数での指導を行う専門員を配置
特別支援員の配置	個別の支援を必要とする児童生徒に対し、学習面や生活面でのサポートを行う補助員を配置し、きめ細やかな支援体制を確保
日本語特別支援員の配置	日本語指導を必要とする外国人児童生徒に対し、日本語能力の向上や学校生活への適応を支援する専門員を配置
教員業務支援員の配置	授業準備、採点補助、印刷物作成、データ入力など、教員の多岐にわたる事務的業務をサポートする職員を配置し、教員が児童生徒への指導や授業改善に専念できる環境を整備

成　果

■きめ細やかな指導の実現
教員が児童生徒一人ひとりと接する時間を多く確保できるため、個々の学習状況や理解度、性格、課題などをより詳細に把握しやすくなっている。これにより、一人ひとりに合わせた指導や支援が可能となり、学力向上や学習意欲の向上につながっていると考えられる。特に、学習に困難を抱える児童生徒や、特別な支援が必要な児童生徒への対応を丁寧に行うことができた。
■幼児期から、明日香村ならではの地域資源（自然、歴史、文化財など）を活用した独自の教育を受けることができ、豊かな感性や探求心、郷土への愛着を育んでいる。単なる知識の習得だけでなく、子どもの心身の健やかな成長と個性の伸長に寄与していると考える。

基本評価	評価基準	評価内容	評価
	継続性（事業を継続すべきか）	A ・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	C
		B ・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C ・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D ・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性（成果を挙げているか）	A ・十分な成果を挙げている	B
		B ・一定の成果を挙げている	
		C ・一部に対して成果を挙げている	
		D ・成果が見られない	
	効率性（実施方法は適切か）	A ・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B ・実施手法は適切である	
		C ・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D ・見直しが必要である	

課題

■教員不足と少人数クラス編成の維持
児童生徒一人ひとりにきめ細やかな指導が行き届くよう、少人数クラス編成を推進。しかしながら、近年、全国的に深刻化している教員不足は、本村においても例外ではありません。採用活動の強化や定着支援など、様々な対策を講じているが、教員数の確保が大変厳しい状況が続いている。このような状況を受け、現状の教員配置では、従来の少人数クラス編成を維持することが困難になっており、一部学年のクラス編成の見直しを行わざるを得ない状況である。
■教員の固定化による教育の質の停滞
学校においては、長期間同じ教員が同じ学校に在籍する「教員の固定化」が進んでおり、課題。
この固定化は、教員集団内に古い慣習や指導法、時代にそぐわない教育観を定着させる一因となっており、教育活動の停滞を招いている。ICTを活用した授業や探究的な学習、生徒主体の学びといった現代的な教育手法の導入が遅れることで、児童生徒の多様なニーズや社会の変化に対応した教育が提供しきれていない現状がある。
これらの複合的な課題に対応するため、教員確保策の抜本的な見直しに加え、教員の専門性向上や新たな教育観の醸成に向けた研修制度の強化が求められる。

総合評価

評価	今後の方向性
C	単に人員を増やすだけでなく、「教育の専門性向上」「個別最適化された支援の充実」「教員の負担軽減」という、学校現場における主要な課題に包括的に対応している。しかしながら、学校においては、長期間同じ教員が在籍する「教員の固定化」が進行しており、これが教育の質を向上させる上での新たな障壁となっている。この固定化は、教員集団内に古い慣習や指導法、時代にそぐわない教育観を温存させる一因となり、結果として、児童生徒の多様なニーズや現代社会の変化に対応した教育の提供が困難になっている。このため、今後の事業展開においては、単なる人員配置の最適化に留まらず、教員の専門性を高めるとともに、ICT活用や新たな学習指導法を積極的に取り入れるための研修機会を増やすなど、教員集団全体の意識改革を促す施策を同時に推進していく必要がある。

評価委員の意見

児童生徒の人数が年々少なくなってきている中、今後も少人数学級編成ためには財政措置や人材の確保、及び費用対効果について、検討していく必要があると思われます。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	学校施設整備事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）		単位		令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	修繕要望件数		要望	14	21			
			目標	14	21			
		件	実績	27	35			

事業の目的	学校施設の改修、点検等を年次計画的に行い、施設の長寿命化を図るとともに学習環境の改善を図る。
事業の内容	園児児童生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境を確保することを目的に、事故の要因なる学校施設・設備の危険性や、学校生活における行動に伴う危険を早期に発見し、速やかに解消することで、安全な教育環境へ状況に応じて改修工事や設備の更新を行う。 学校施設・設備の安全点検と改善 小中学校の施設・設備について、定期的な安全点検を実施し、危険箇所を特定。 特定された危険箇所に対して、必要な施設整備工事（改修、修繕等）を計画し、実施。
成　　果	老朽化した学校施設の改修等により、安心安全で落ち着いた学習環境の整備を実施。 防災訓練、遊具点検、学校環境衛生検査、消防設備点検等を幼小中で実施 小学校屋内運動場空調設備調査設計業務 5,379千円 小学校体育館舞台幕修繕 1,554千円 小学校教室等エアコン修繕 1,089千円 小学校その他の修繕 1,235千円 中学校プール内給水管引替修繕 1,184千円 廊下天井漏水修繕 1,017千円 中学校その他修繕 3,261千円 幼稚園その他修繕 184千円

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性（事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性（成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性（実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	
課題			施設の老朽化に伴い要修繕箇所も増加が見込まれる。安全確保に努めつつ、緊急性の高い修繕を優先し対応するとともに、機能回復のための修繕や設備の更新を計画的に進める必要がある。 また、現代の教育環境に求められるニーズも多様化しており、空調設備の導入やICT環境の整備といった大規模な改修が喫緊の課題です。これらを計画的に実施していく必要がある。 加えて、これらの工事を円滑に進める上で、工事を担当できる職員が不足している点も喫緊の課題。	

総合評価	評価	今後の方向性
	B	児童、生徒の安全管理に努め、計画的な改修により施設の長寿命化を図る。また、各学校からの要望や状況，社会的ニーズを考慮しながら，学校施設環境改善交付金及び地方債等を活用し，教育環境の整備を行った。

評価委員の意見	子どもたちが安全で快適な環境で学べるよう、施設整備と安全管理に取り組んでおり、今後も老朽化への対応と現代のニーズへの対応を期待します。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	ＩＣＴ教育の充実	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	ICT機器整備完了学校割合	単位	目標	100	100	100	100	100
		%	実績	100	100			
式	（必要なICT機器整備が完了した学校数）÷（対象学校総数）× 100							
説明	ICT環境の整備支援が行き渡っているかを示す指標です。GIGAスクール構想など、情報教育環境の充実に関わる事業で有効です。							

事業の目的	GIGAスクール構想に基づき各児童生徒に整備された1人1台端末を最大限に活用し、情報活用能力の育成を核とした教育DXを推進することを目的としている。
事業の内容	■GIGAスクール構想に基づき、１人１台端末の整備 ■ICT機器の整備と利活用の促進 各教科等において、Chromebookを日常的に活用した授業を展開。 以下の主要なアプリケーションを積極的に導入し、児童生徒の主体的な学びを促進。 「ロイロノート・スクール」「ミライシード」「Google Workspace for Education（ドキュメント、スプレッドシート、スライド）」等その他の教育用アプリケーションを柔軟に活用し、情報収集、分析、表現活動を充実させている。　また、学校にICT支援員を配置し、教員への専門的なサポートを提供し、教員への個別指導などを通じて、教員のICT活用スキルの向上を支援している。
成　　果	■端末整備状況（児童生徒に対する整備台数）：１００％ ■ICT支援員配置：各校月１回学校へ訪問 授業では、ロイロノート・スクールやミライシードなどのアプリケーションを積極的に導入し、個別最適化された学びと協働的な学びを推進させた。また、Chromebookの家庭への持ち帰りを推進することで、学校外での学習機会を広げ、学習習慣の定着を図りました。 さらに、ICT支援員による教員へのサポートを充実させるとともに、ICTを活用した指導方法に関する教員研修を継続的に実施することで、教員の指導力向上と授業の質の改善させた。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	【整備の課題】 予算不足と継続性: 機器購入・更新、運用費の確保が困難。 機器管理の複雑化: 多様な端末の管理、セキュリティ対策の専門性不足。 【利活用の課題】 教員の指導力不足: ICT活用スキルや授業での実践ノウハウの格差。 効果的な活用法の未確立:ICTが、従来の教科書やプリントを単にデジタルに置き換える代替手段に留まっている。このため、ICT 本来の可能性である「深い学び」や「創造的な学び」へと繋がっていないという課題。 指標: 協働的な学習や探究的な活動へのICTの活用度、児童生徒の学習成果の変化、教員の指導方法の質の向上 サポート体制の不足:ICTを円滑に活用するためには、専門的なサポートが不可欠。しかし、学校には十分なICT支援員が配置されておらず、現場の教員が安心してICTを活用できる環境が整っていない。 指標: ICT支援員の配置状況、機器トラブル解決までの平均時間、教員からのICTサポートに関する満足度 情報モラル教育の不足:デジタル社会を生きる上で不可欠な「デジタル・シティズンシップ」を児童生徒が十分に身につけていないという課題。インターネット上での適切な振る舞いや、情報セキュリティ、著作権、個人情報の保護といった知識や倫理観の育成が追いついていない。 指標: 情報モラル教育の年間実施時間数と内容、児童生徒の情報モラルに関する知識・意識調査の結果、情報モラルに関わる問題の発生件数

総合評価	評価	今後の方向性
	B	ハードウェアの充実だけでなく、人材育成、サポート体制の強化、そして教育内容そのものの変革が不可欠です。ICTが単なる道具に終わらず、子どもたちの「生きる力」を育むための強力なツールとなるよう、継続的かつ戦略的な取り組みが必要。

評価委員の意見	ICT環境の整備から、その活用、そして教員の指導力向上まで、ICT教育推進のための包括的な取り組みが着実に進められていることを示されています。これにより、子どもたちの学習機会が拡大し、学びの質が向上していることが伺えます。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	児童生徒学力等調査事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）		単位	目標	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	学力調査の平均点	点数	実績	別　紙				

式	$\text{平均点} = \dfrac{\text{対象となる児童生徒の合計点}}{\text{対象となる児童生徒数}}$
説明	テストの満点に対して、平均的にどれくらいの点数を取れたかを示します。

事業の目的	児童生徒の学力状況や学習に関する実態を客観的に把握・分析し、学校における具体的な課題や、その要因を明確化する。
事業の内容	全国学力学習状況調査対象外の小学校２年生から５年生、中学校１，２生を対象に、国語・数学（算数）のテストを実施し、各学年の基礎学力の定着度合いを計る材料としている。毎年同じ時期に実施することで、各学年の特性や、経年変化を見る資料としても活用が期待できる。 ・学校組織を活かした授業改善の推進 ・小・中連携による系統的な学力の育成 ・確かな学力の定着と向上
成　果	各学年で単元別の理解度を結果として返されてくるので、教師側として指導の工夫や改善に役立てることができている。また個人の習熟度やその児童生徒がどこでつまづいているかが分かる資料でもあるので、個別対応に役立てることができている。また、昨年度の資料と比較することで学年集団としての評価や経年変化として基礎学力の定着度合いを評価し、教師がその指導に役立てることができていた。

	評価基準	評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A ・村民等のニーズが高く継続すべき事業である B ・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる C ・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある D ・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	B
	効果性 （成果を挙げているか）	A ・十分な成果を挙げている B ・一定の成果を挙げている C ・一部に対して成果を挙げている D ・成果が見られない	B
	効率性 （実施方法は適切か）	A ・実施手法は適切であり、見直しの必要はない B ・実施手法は適切である C ・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である D ・見直しが必要である	B
課題		結果をどのように教育改善に繋げていくかについて、学校や保護者、地域への丁寧な説明と理解を求めることが重要である。点数だけでなく、学びのプロセスや子どもたちの成長全体に焦点を当てる姿勢を示す必要があると考える。	

総合評価	評価	今後の方向性
	B	データ活用を促進し、教員の専門性を高めながら、児童生徒一人ひとりに寄り添った教育を実現する、非常に優れた取り組みであるので。今後もこの評価システムを継続的に活用し、さらなる教育の質の向上を目指す。

評価委員の意見	調査結果が注目されることで、テストの点数を上げるための「詰め込み教育」や「ドリル学習」に偏重するリスクもあります。子どもたちの学習意欲を低下させたり、応用力や思考力を育む機会を奪ったりしないように気をつけながら、学力の向上を目指してくれることを期待します。

別紙

（出典：明日香村教育委員会）

指標名		Ｒ５			Ｒ６			Ｒ７			Ｒ８			Ｒ９		
学力調査の平均点		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率
国語	小２	78.9	84.4	93%	86.1	82.8	104%									
	小３	77.8	84.0	93%	74.2	81.5	91%									
	小４	69.8	72.3	97%	57.0	66.5	86%									
	小５	71.0	70.6	101%	65.0	62.1	105%									
	小６	63.0	67.2	94%	70.1	67.7	104%									
算数	小２	81.5	85.7	95%	83.6	84.3	99%									
	小３	78.2	81.4	96%	76.6	83.8	91%									
	小４	73.3	67.2	109%	69.8	71.3	98%									
	小５	62.8	64.1	98%	62.4	61.8	101%									
	小６	57.0	62.5	91%	63.2	63.4	100%									
国語	中１	68.9	72.2	95%	60.0	62.0	97%									
	中２	74.1	73.7	101%	67.1	69.2	97%									
	中３	77.0	69.8	110%	58.9	58.1	101%									
数学	中１	68.9	66.4	104%	65.8	65.3	101%									
	中２	47.4	48.5	98%	46.4	50.0	93%									
	中３	60.0	51.0	118%	56.5	52.5	108%									
英語	中３	55.0	45.6	121%	-	-	-									

指標の達成率の算出方法
村正答率÷（国正答率+目標値）×100

■全国学力・学習状況調査の結果の推移

（単位：％　出典：明日香村教育推進課）

小学校				H28	H29	H30	R1	R2	R3	R４	R5	R6
ベネッセ	２年	国語	明日香村	−	−	−	−	−	−	72.3	78.9	86.1
			全国	−	−	−	−	−	−	83.1	84.4	82.8
		算数	明日香村	−	−	−	−	−	−	81.5	81.5	83.6
			全国	−	−	−	−	−	−	89.2	85.7	84.3
	３年	国語	明日香村	−	−	−	−	−	−	83.8	77.8	74.2
			全国	−	−	−	−	−	−	80.5	84.0	81.5
		算数	明日香村	−	−	−	−	−	−	84.8	78.2	76.6
			全国	−	−	−	−	−	−	84.5	81.4	83.8
	４年	国語	明日香村	−	−	−	−	−	−	71.9	69.8	57.0
			全国	−	−	−	−	−	−	68.2	72.3	66.5
		算数	明日香村	−	−	−	−	−	−	78.1	73.3	69.8
			全国	−	−	−	−	−	−	71.8	67.2	71.3
	５年	国語	明日香村	−	−	−	−	−	−	56.9	71.0	65.0
			全国	−	−	−	−	−	−	63.3	70.6	62.1
		算数	明日香村	−	−	−	−	−	−	55.2	62.8	62.4
			全国	−	−	−	−	−	−	63.9	64.1	61.8
全国学力状況調査	６年	国語	明日香村	73.5	78.0	77.0	63.0	中止	60.7	58.0	63.0	70.1
			奈良県	71.7	74.0	69.0	60.0		61.4	63.0	65.0	67.0
			全国	72.9	74.8	70.7	63.8		64.7	65.6	67.2	67.7
		算数	明日香村	81.7	81.0	70.0	66.0		68.1	58.0	57.0	63.2
			奈良県	77.1	78.0	63.0	66.0		69.3	62.0	62.0	63.0
			全国	77.6	78.6	63.5	66.6		70.2	63.2	62.5	63.4
		理科	明日香村	−	−	56.0	−		−	57.0	−	−
			奈良県	−	−	59.0	−		−	61.0	−	−
			全国	−	−	60.3	−		−	63.3	−	−
		国語Ｂ	明日香村	66.3	65.0	53.0						
			奈良県	56.9	56.0	53.0						
			全国	57.8	57.5	54.7						
		算数Ｂ	明日香村	48.7	47.0	50.0						
			奈良県	46.4	45.0	50.0						
			全国	47.2	45.9	51.5						

※　赤字　奈良県・全国を上回る。

中学校				H28	H29	H30	R1	R2	R3	R４	R5	R6
ベネッセ	１年	国語	明日香村	−	−	−	−	−	−	66.3	68.9	60.0
			全国	−	−	−	−	−	−	70.5	72.2	62.0
		数学	明日香村	−	−	−	−	−	−	63.7	68.9	65.8
			全国	−	−	−	−	−	−	64.0	66.4	65.3
	２年	国語	明日香村	−	−	−	−	−	−	73.5	74.1	67.1
			全国	−	−	−	−	−	−	69.3	73.7	69.2
		数学	明日香村	−	−	−	−	−	−	62.5	47.4	46.4
			全国	−	−	−	−	−	−	58.6	48.5	50.0
全国学力状況調査	３年	国語	明日香村	77.1	79.0	78.0	82.0	中止	68.0	71.0	77.0	58.9
			奈良県	75.9	78.0	76.0	72.0		62.0	68.0	67.0	56.0
			全国	75.6	77.4	76.1	72.8		64.6	69.0	69.8	58.1
		数学	明日香村	63.5	72.0	67.0	68.0		57.5	46.0	60.0	56.5
			奈良県	63.6	65.0	66.0	59.0		54.3	50.0	50.0	51.6
			全国	62.2	64.6	66.1	59.8		56.9	51.4	51.0	52.5
		理科	明日香村	−	−	67.0	−		−	49.0	−	−
			奈良県	−	−	64.0	−		−	48.0	−	−
			全国	−	−	66.1	−		−	49.3	−	−
		英語	明日香村				65.0		−	−	55.0	−
			奈良県				56.0		−	−	45.0	−
			全国				56.0		−	−	45.6	−
		国語Ｂ	明日香村	67.3	72.0	60.0						
			奈良県	65.5	72.0	60.0						
			全国	66.5	72.2	61.2						
		数学Ｂ	明日香村	−	−	67.0						
			奈良県	−	−	64.0						
			全国	−	−	66.1						

※　赤字　奈良県・全国を上回る。

近年、小学6年生の結果が全国平均を下回っている。学力の二極化があり、特に下位層の児童・生徒に対する取り組みが必要である。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	児童生徒体力・運動能力等調査事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①		単位	目標	別　　　紙				
			実績					

事業の目的	児童・生徒の体力が低下している状況に鑑み、明日香村の児童・生徒の体力・運動能力及び生活・運動習慣等の実態を把握・分析することにより、児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、これらの取組を通じて、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
事業の内容	体力・運動能力に関する調査 新体力テストにより実施する。 生活・運動習慣等の実態に関する調査 生活・運動習慣等の実態に関する質問紙調査を実施する。 学校に対する質問紙調査 児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る取組に関する質問紙調査を実施する。

成　　果			
	明日香村の児童生徒は、いくつかの項目で全国平均や奈良県平均を上回る優れた体力・運動能力を示している。		
	小学５年生	握力（男女とも）	全国・県平均を上回っており、特に男子は顕著な差がある。日常的な遊びや生活の中で物を握る、引っ張るなどの活動が豊富に行われている可能性を示唆している。
		上体起こし（男女とも）	全国・県平均を上回っており、体幹の筋力が比較的高い水準である。
		長座体前屈（女子）	全国・県平均を大きく上回っており、柔軟性が非常に高いことが伺える。
		反復横とび（男女とも）	全国・県平均を大きく上回っており、敏捷性や全身の協調性が優れている。
		ボール投げ（男女とも）	全国・県平均を大きく上回っており、投げる動作の能力が高いことが分かります。特に男子は全国平均を5m近く上回っている。
	中学２年生	長座体前屈（男女とも）	全国・県平均を大きく上回っており、優れた柔軟性を示しています。これは怪我の予防にも繋がる重要な能力です。
		反復横とび（男女とも）	全国・県平均を大きく上回っており、敏捷性や全身の協調性が非常に優れている。
		50m走（女子）	全国・県平均を上回っており、瞬発的なスピードが高いことが分かる。
		ボール投げ（男子）	全国・県平均を上回っており、投げる能力が比較的高いです。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	C
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	C
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題		
	中学生の心肺持久力や一部の筋力・瞬発力、女子の投能力に課題が見られる	
	心肺持久力（20mシャトルラン）の強化	特に中学校2年生の男女、小学校5年生女子において、全国・県平均を下回る、あるいは同等レベルであるため、持久力を高める運動機会の増加や、授業内容の工夫が必要である。
	筋力・瞬発力の向上	握力（中学生男女）、上体起こし（中学生男女）、50m走（中学生男子、小学生男子）、立ち幅とび（中学生男女、小学生女子）において改善の余地が見られる。
	ボール投げ（中学生女子）の強化	全国・県平均と大きく差があるため、投げる動作の基本練習や、ボールを使った遊びの機会を増やすなど、特化した取り組みが必要である。

総合評価	評価	今後の方向性
	C	全国・県平均を上回る項目も多く見られ、これまでの体育指導や運動機会の提供が一定の成果を上げていることが伺える。特に小学校段階では多くの項目で強みを発揮している。しかし、中学生の心肺持久力や一部の筋力・瞬発力、女子の投能力に課題が見られるため、今後はこれらの弱点を克服するための具体的な運動プログラムの導入や、運動習慣の定着に向けたさらなる施策が必要である。

評価委員の意見	体力調査で明らかになった特定の課題に対する具体的な改善策の実行と、その効果の継続的な検証が、さらなる教育の質の向上に繋がるものと期待します。

別紙

（出典：明日香村教育委員会）

測定項目	単位			R５		R６		R７		R８		R９	
				小５	中２	小５	中２	小５	中２	小５	中２	小５	中２
握力	Ｋｇ	男	実績値	18.4	28.8	17.47	27.54						
			目標値	16.02	29.05	15.82	28.91						
			達成率	115%	99%	110%	95%						
		女	実績値	17.7	24.69	15.53	22.73						
			目標値	16.03	23.24	15.64	23.15						
			達成率	110%	106%	99%	98%						
上体起こし	回	男	実績値	18.3	27.35	20	26.96						
			目標値	18.74	26.12	19.03	26.29						
			達成率	98%	105%	105%	103%						
		女	実績値	17.65	22.54	17.58	24.09						
			目標値	17.69	21.84	17.9	21.8						
			達成率	100%	103%	98%	111%						
長座体前屈	ｃｍ	男	実績値	38.1	43.2	35.58	50.83						
			目標値	33.47	43.74	33.52	43.7						
			達成率	114%	99%	106%	116%						
		女	実績値	41.22	43.85	41.42	49.27						
			目標値	38.19	45.9	37.79	46.22						
			達成率	108%	96%	110%	107%						
反復横とび	点	男	実績値	45.75	63.65	47.95	57.13						
			目標値	40.94	52.21	40.68	52.45						
			達成率	112%	122%	118%	109%						
		女	実績値	40.35	60.92	40.74	53.27						
			目標値	38.98	46.65	38.7	46.36						
			達成率	104%	131%	105%	115%						
２０ｍ シャトルラン	回	男	実績値	50.85	71.1	55.21	77.91						
			目標値	47.41	77.57	46.78	77.33						
			達成率	107%	92%	118%	101%						
		女	実績値	38.17	51	41.47	70.82						
			目標値	36.34	49.94	36.15	49.2						
			達成率	105%	102%	115%	144%						
５０ｍ走	秒	男	実績値	9.19	8.45	9.36	7.91						
			目標値	9.36	7.97	9.44	7.94						
			達成率	102%	94%	101%	100%						
		女	実績値	9.55	9.42	9.87	8.54						
			目標値	9.63	8.97	9.74	8.99						
			達成率	101%	95%	99%	105%						
立ち幅とび	ｃｍ	男	実績値	155.55	198.15	158.68	192.21						
			目標値	151.72	196.27	151.44	196.67						
			達成率	103%	101%	105%	98%						
		女	実績値	143.78	168.23	145.05	181.82						
			目標値	144.96	166.41	143.97	166.26						
			達成率	99%	101%	101%	109%						
ボール投	ｍ	男	実績値	21.2	18.45	25.26	20.26						
			目標値	20.82	20.44	20.9	20.59						
			達成率	102%	90%	121%	98%						
		女	実績値	14.61	13.54	15.74	14						
			目標値	13.61	12.08	13.3	12.2						
			達成率	107%	112%	118%	115%						

■全国体力・運動能力・運動習慣調査の結果の推移

小学５年生

測定項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
＜男子＞													
握力（kg）	村	19.32	16.06	12.95	17.13	16.41	15.91	16.91	新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため中止	16.60	20.40	18.40	17.47
	県	16.65	16.58	16.29	16.30	16.18	16.26	16.11		15.90	15.96	16.02	15.82
	全国	16.63	16.55	16.45	16.47	16.51	16.54	16.37		16.22	16.21	16.13	16.01
上体おこし（回）	村	20.09	18.94	22.09	21.58	23.13	19.17	25.30		20.64	21.88	18.30	20.00
	県	19.34	19.43	19.29	19.42	19.60	19.71	19.87		18.62	18.92	18.74	19.03
	全国	19.54	19.56	19.58	19.67	19.92	19.95	19.80		18.90	18.86	19.00	19.19
長座体前屈（cm）	村	33.41	34.00	26.45	35.00	32.76	27.78	31.74		38.60	35.76	38.10	35.58
	県	32.48	32.88	32.95	32.55	32.69	32.67	32.54		32.85	33.36	33.47	33.52
	全国	32.73	32.87	33.05	32.87	33.16	33.31	33.24		33.48	33.79	33.98	33.79
反復横とび（点）	村	44.41	43.71	44.77	47.39	42.06	40.39	40.74		45.83	47.52	45.75	47.95
	県	41.20	41.74	41.47	42.05	41.61	41.91	41.93		40.26	40.65	40.94	40.68
	全国	41.41	41.61	41.60	41.97	41.95	42.10	41.74		40.35	40.36	40.60	40.66
20mシャトルラン（回）	村	46.68	49.88	39.05	64.70	55.06	43.57	59.61		41.71	62.46	50.85	55.21
	県	50.79	51.06	51.01	50.78	51.58	51.46	51.07		46.08	47.03	47.41	46.78
	全国	51.41	51.67	51.64	50.78	52.23	52.15	50.32		46.83	45.92	46.92	46.90
50m走（秒）	村	8.85	9.21	9.43	8.85	9.26	9.30	9.25		8.80	8.64	9.19	9.36
	県	9.30	9.31	9.33	9.32	9.34	9.32	9.36		9.39	9.45	9.36	9.44
	全国	9.38	9.38	9.38	9.32	9.37	9.37	9.42		9.45	9.53	9.48	9.50
立ち幅とび（cm）	村	154.14	154.12	143.81	156.70	129.06	144.26	155.17		156.92	169.92	155.55	158.68
	県	152.30	150.92	151.58	149.53	150.36	151.65	151.27		151.30	151.33	151.72	151.44
	全国	152.07	151.70	151.24	149.53	151.73	152.24	151.45		151.41	150.83	151.13	150.42
ボール投（m）	村	26.14	25.35	20.86	24.50	19.24	18.39	21.70		22.50	24.48	21.20	25.26
	県	23.45	23.33	22.64	22.57	22.75	22.37	22.14		20.75	20.68	20.82	20.90
	全国	23.19	22.90	22.52	22.42	22.52	22.15	21.61		20.58	20.31	20.52	20.75

中学２年生

測定項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
＜男子＞													
握力（kg）	村	30.77	29.30	30.16	29.83	27.41	29.35	28.31	新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため中止	26.65	30.94	28.80	27.54
	県	28.45	28.46	28.71	28.86	29.05	29.13	28.63		28.89	28.83	29.05	28.91
	全国	29.21	29.00	28.93	28.91	28.88	28.84	28.65		28.80	28.99	29.02	28.95
上体おこし（回）	村	30.65	34.45	29.63	29.73	27.29	26.26	28.25		29.15	27.05	27.35	26.96
	県	27.79	28.86	28.74	28.87	28.09	28.49	27.66		26.85	26.69	26.12	26.29
	全国	27.58	27.45	27.43	27.46	27.33	27.36	26.96		25.99	25.74	25.82	25.94
長座体前屈（cm）	村	42.65	48.13	46.21	45.00	42.24	41.48	40.00		35.50	39.29	43.20	50.83
	県	41.31	42.22	43.10	42.97	42.82	43.61	42.15		43.90	43.78	43.74	43.70
	全国	43.11	42.92	43.08	43.06	43.10	43.44	43.50		43.67	43.87	44.16	44.47
反復横とび（点）	村	58.81	58.18	56.63	56.13	54.53	52.70	54.00		52.05	50.05	63.65	57.13
	県	51.31	52.29	53.29	53.79	52.82	53.91	53.10		52.79	52.44	52.21	52.45
	全国	51.08	51.31	51.62	51.93	51.84	52.24	51.91		51.19	51.05	51.22	51.51
20mシャトルラン（回）持久走※	村	88.61	98.09	86.74	89.45	77.06	79.57	85.69		431.60	81.84	71.10	77.91
	県	84.25	84.75	86.82	87.48	85.70	86.43	83.08		410.49	78.54	77.57	77.33
	全国	84.98	85.29	85.56	86.24	85.54	86.06	83.53		406.38	78.07	78.07	78.98
50m走（秒）	村	7.74	7.73	7.97	7.74	8.15	7.89	8.35		8.21	7.83	8.45	7.91
	県	8.02	8.01	7.93	7.93	7.97	7.90	7.95		7.95	7.96	7.97	7.94
	全国	8.04	8.03	8.01	8.03	8.00	7.99	8.02		8.01	8.06	8.01	7.99
立ち幅とび（cm）	村	195.48	199.62	196.95	207.74	198.12	197.52	193.69		189.40	204.74	198.15	192.21
	県	189.13	190.23	194.13	194.99	193.56	195.60	193.70		196.73	197.61	196.27	196.67
	全国	193.68	193.43	194.05	194.69	194.55	195.62	195.03		196.36	196.89	197.02	197.18
ボール投（m）	村	23.90	24.38	21.00	21.45	22.24	17.13	20.44		19.55	21.00	18.45	20.26
	県	20.23	20.74	20.55	20.46	20.45	20.74	20.32		20.22	20.56	20.44	20.59
	全国	21.01	20.86	20.65	20.59	20.51	20.49	20.40		20.31	20.28	20.40	20.57

※実施種目が選択できるため、R3年度は持久走を実施。

中学校男子については、全国平均を下回る結果が多く見られる。引き続き、体育指導の充実、総合型地域スポーツクラブ（楽スポ）との連携等により基礎体力向上を図る。

（単位：％　出典：明日香村教育推進課）

＜女子＞

測定項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
握力（kg）	村	17.94	17.21	17.39	15.16	16.22	15.54	17.29	新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため中止	16.21	18.86	17.70	15.53
	県	16.19	16.22	15.85	16.01	15.95	15.93	15.93		15.80	15.86	16.03	15.64
	全国	16.14	16.09	16.05	16.13	16.12	16.15	16.09		16.09	16.10	16.01	15.77
上体おこし（回）	村	17.78	19.17	20.44	16.92	23.78	20.00	23.29		19.36	19.69	17.65	17.58
	県	17.59	17.94	18.10	18.31	18.52	18.74	18.91		17.56	17.87	17.69	17.90
	全国	18.06	18.26	18.42	18.60	18.80	18.96	18.95		18.08	17.97	18.05	18.16
長座体前屈（cm）	村	40.78	32.28	34.17	39.36	39.83	35.96	40.86		40.86	40.69	41.22	41.42
	県	36.59	36.84	36.97	36.87	37.09	36.92	37.04		37.52	37.76	38.19	37.79
	全国	36.87	37.21	37.44	37.21	37.44	37.62	37.62		37.90	38.18	38.45	38.19
反復横とび（点）	村	41.78	38.22	41.41	40.40	40.89	36.63	38.71		43.85	45.00	40.35	40.74
	県	38.03	38.98	39.07	39.85	39.78	39.89	39.93		38.67	38.63	38.98	38.70
	全国	39.06	39.36	39.55	40.06	40.06	40.32	40.14		38.72	38.66	38.73	38.70
20mシャトルラン（回）	村	37.33	32.44	31.35	38.36	45.00	36.58	44.23		35.93	55.08	38.17	41.47
	県	37.72	39.11	39.40	39.80	40.73	40.87	40.90		36.94	36.73	36.34	36.15
	全国	39.66	40.29	40.69	41.29	41.62	41.88	40.79		38.15	36.97	36.80	36.59
50m走（秒）	村	9.43	9.59	9.86	9.50	9.58	9.61	9.84		9.20	9.09	9.55	9.87
	県	9.65	9.62	9.62	9.59	9.60	9.59	9.63		9.63	9.68	9.63	9.74
	全国	9.64	9.64	9.62	9.61	9.60	9.60	9.64		9.64	9.70	9.71	9.77
立ち幅とび（cm）	村	151.67	153.41	140.29	139.63	136.50	142.33	146.57		156.29	162.00	143.78	145.05
	県	143.14	143.62	144.21	142.88	145.24	144.91	145.49		145.82	145.51	144.96	143.97
	全国	144.55	144.76	144.77	145.31	145.49	145.94	145.68		145.18	144.55	144.29	143.13
ボール投（m）	村	15.94	16.00	11.89	13.65	14.17	14.13	13.14		15.64	15.46	14.61	15.74
	県	14.21	14.20	14.02	14.11	14.37	14.07	13.79		13.48	13.37	13.61	13.30
	全国	13.94	13.90	13.77	13.88	13.93	13.77	13.61		13.30	13.17	13.22	13.15

＜女子＞

測定項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
握力（kg）	村	24.96	24.11	24.82	22.25	22.89	23.80	24.14	新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため中止	24.52	25.18	24.69	22.73
	県	23.61	23.33	23.50	23.65	23.85	24.06	23.89		23.68	23.27	23.24	23.15
	全国	23.76	23.70	23.68	23.75	23.78	23.87	23.79		23.43	23.21	23.15	23.18
上体おこし（回）	村	24.33	25.78	21.47	25.81	24.26	26.40	23.05		21.74	23.55	22.54	24.09
	県	23.25	24.01	23.99	24.31	24.23	24.65	24.20		23.10	22.40	21.84	21.80
	全国	23.03	23.07	23.26	23.48	23.62	23.87	23.69		22.32	21.67	21.62	21.56
長座体前屈（cm）	村	49.63	49.72	46.94	48.75	42.68	51.47	42.68		41.22	52.55	43.85	49.27
	県	43.80	45.57	45.45	45.32	45.14	45.54	46.10		46.84	46.39	45.90	46.22
	全国	45.12	45.23	45.53	45.46	45.58	46.22	46.32		46.20	46.07	46.27	46.47
反復横とび（点）	村	50.63	52.50	47.71	52.06	48.58	52.13	54.00		48.48	49.00	60.92	53.27
	県	44.85	46.27	46.92	47.38	47.43	48.03	48.10		47.45	46.86	46.65	46.36
	全国	45.27	45.63	46.09	46.60	46.75	47.37	47.28		46.25	45.81	45.65	45.65
20mシャトルラン（回）持久走※	村	49.88	59.56	51.53	64.69	54.68	60.53	61.36		304.05	49.09	51.00	70.82
	県	55.66	57.97	56.24	58.28	57.52	59.46	58.32		309.80	52.09	49.94	49.20
	全国	57.20	57.77	58.06	58.80	58.79	59.87	58.31		297.62	51.60	50.70	50.67
50m走（秒）	村	8.87	8.82	8.92	8.62	8.97	8.86	8.94		8.72	9.09	9.42	8.54
	県	8.90	8.88	8.84	8.84	8.81	8.75	8.80		8.85	8.92	8.97	8.99
	全国	8.88	8.87	8.84	8.83	8.81	8.78	8.81		8.88	8.96	8.95	8.96
立ち幅とび（cm）	村	158.87	166.28	155.06	171.56	173.21	179.13	175.73		171.00	162.82	168.23	181.82
	県	162.50	163.24	166.83	166.86	167.20	169.66	168.85		169.39	167.81	166.41	166.26
	全国	166.18	166.53	167.28	168.28	168.40	170.26	169.90		168.15	167.04	166.34	166.32
ボール投（m）	村	12.29	13.78	13.00	14.38	14.63	12.33	12.77		13.59	13.27	13.54	14.00
	県	12.43	12.66	12.67	12.70	14.07	12.79	12.65		12.54	12.51	12.08	12.20
	全国	12.97	12.88	12.83	12.85	12.88	12.98	12.96		12.72	12.45	12.43	12.40

※■全国を上回る　■全国を下回る

事務事業点検評価

（新規・継続・完了）事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	いじめ・不登校対策等生徒指導事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	いじめ認知件数（年次推移）	単位	目標	0	0	0	0	0
		件	実績	3	2			
事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
②	不登校児童生徒数（年次推移）	単位	目標	0	0	0	0	0
		件	実績	4	6			

事業の目的	児童生徒が安心して学校生活を送り、健やかに成長できるよう、いじめや不登校の問題に対し、よりきめ細やかな指導や支援を行う
事業の内容	いじめの未然防止、早期発見、早期対応の強化 いじめを許さない環境を学校全体で作り上げ、いじめが発生した際には迅速かつ適切に対応することで、被害児童生徒の心のケアと加害児童生徒への指導を徹底。 不登校児童生徒への支援の充実 不登校の原因となっている問題の解消に努めるとともに、個々の状況に応じた学習支援や心のケアを行い、社会的自立に向けた支援を行う。また、学校復帰を促すだけでなく、多様な学びの場を提供。 さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家との連携を強化。
成　　果	児童生徒一人ひとりの状況に応じ、学校復帰に向けた個別支援計画を策定。この計画に基づき、別室登校や短時間登校など、柔軟な対応を実施し、段階的な学校生活への適応を支援した。 不登校の児童生徒を抱える保護者に教育相談を進め、必要な情報の提供や心理的なサポートを行い、家庭での支援体制の強化を図った。 児童生徒の心のケアを目的として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、通級指導教室指導員などを配置しました。これにより、教育相談体制を充実させるとともに、問題解決に向けた具体的な支援の充実に努めた。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性（事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性（成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	C
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性（実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	児童生徒一人ひとりに丁寧な対応が求められ、教員にとって大きな精神的・時間的負担となっている。少子化が進む中でも、いじめや不登校の件数は高止まりしており、教員一人あたりが抱える課題は複雑化・多様化している。そのため、教員の負担軽減と質の高い指導を実現するための体制強化が喫緊の課題。 ■相談体制と支援策の不十分さ いじめや不登校を抱える児童生徒は、精神的なストレスや学業の遅れなど、複合的な困難に直面している。しかし、現状の支援体制では、以下のような課題が残っている。 個別最適化された支援策の不足：児童生徒一人ひとりの状況や特性に応じた柔軟な支援策が十分ではない。 例えば、学校に登校できない児童生徒に対するオンラインでの学習支援や、居場所づくりのための多様な選択肢が限られている。 関係機関との連携不足：専門的な支援が必要な場合でも、教育委員会、福祉、医療、警察などの外部機関との情報共有や連携が円滑に行われていない。これにより、児童生徒への支援が断片的となり、継続的なサポートが困難になっている。

総合評価	評価	今後の方向性
	C	不登校児童生徒の増加や生徒指導上の問題の多様化に対応するため、今後も事業内容を見直しながら、不登校児童生徒の減少に取り組んでいく。 不登校の減少に向け、「予防」「早期対応」「支援」の3つの観点から総合的に取り組む。 予防：児童生徒が安心して過ごせる心の居場所づくりや、教員が連携して変化に気づくチーム体制を強化。 早期対応：スクールカウンセラーなどの専門家と密に連携し、児童生徒一人ひとりの状況に合わせた個別支援を充実させる。オンラインでの学習支援や別室登校など、多様な選択肢を提供。 教員支援：教員が専門性を高めるための研修を充実させるとともに、業務負担を軽減し、児童生徒に向き合う時間の確保。

評価委員の意見	予防教育の深化、不登校支援の多様化、そして関係機関の連携強化とデータに基づいた事業改善を継続的に行うことで、全ての子どもたちが安心して学べる環境をさらに発展させていくことを期待します。

■いじめ認知件数の推移

（単位：件、各年度3月31日現在、出典：明日香村教育推進課）

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
小　学　校		6	0	2	2	2	5	4	2	5	0	1	0
	解決済件数	(6)	(0)	(2)	(2)	(2)	(5)	(4)	(1)	(5)	(0)	(0)	(0)
中　学　校		3	2	2	8	3	0	2	0	1	2	2	2
	解決済件数	(3)	(2)	(2)	(8)	(3)	(0)	(2)	(0)	(1)	(2)	(2)	(2)

■不登校児童・生徒数の推移

（単位：件、各年度3月31日現在、出典：明日香村教育推進課）

			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	長期欠席	不登校	0	1	1	1	1	1	2	1	0	1	3	4
		病　気	0	0	0	0	0	0	4	1	1	3	5	1
		新型コロナウイルスの感染回避	−	−	−	−	−	−	−	−	3	0	0	0
		その他	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	1
		小　計	0	1	1	1	3	3	6	3	4	4	8	6
	15日以上欠席		0	0	0	1	3	5	5	3	33	24	3	4
中学校	長期欠席	不登校	5	1	1	1	0	0	0	1	4	8	1	6
		病　気	0	0	2	2	1	0	0	0	1	0	2	3
		新型コロナウイルスの感染回避	−	−	−	−	−	−	−	−	1	0	0	0
		その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1
		小　計	5	1	4	3	1	0	0	1	6	8	5	10
	15日以上欠席		0	0	0	3	1	0	0	2	6	8	1	6

新型コロナウイルス感染症の感染回避を目的とした理由により、令和３・４年度については「１５日以上欠席」する人数が大きく増加していた。新型コロナウイルス感染症の「５類移行」に伴い、欠席する人数が減少となった。

■教育相談件数の推移

（単位：件、各年度3月31日現在、出典：明日香村教育推進課）

		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
相談者（実数）		22	24	28	27	19	26	35	29	38	34
相談件数	不　登　校	51	42	53	36	112	58	19	13	38	15
	特別支援教育	93	89	110	112	53	12	14	24	41	42
	友　人　関　係	0	0	0	0	0	3	2	1	1	5
	問　題　行　動	87	39	12	0	0	0	42	48	20	37
	そ　の　他	17	56	34	67	42	77	35	31	11	9
	小　計	248	226	209	215	207	150	112	117	111	108

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	安心して子どもを育てられる環境づくり	費目	幼稚園、児童福祉費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）		単位		令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	わくわくいろいろあそび利用率	単位	目標	60	60	60	70	70
		%	実績	63.7	66.8			
式	利用者数 =○名 /○ 回 =○名/○回、1回あたりの利用者数は平均で約○名 利用率 = (○名 /○名) ＊ 100% =○%							
説明	利用者数は「のべ利用人数」を「開催回数」で割る 利用率は、この利用者数を園児数で割ることで算出							
②	にこにこルーム利用率	単位	目標	60	60	60	70	70
		%	実績	73.4	63.2			
式	利用者数 =○名 /○ 回 =○名/○回、1回あたりの利用者数は平均で約○名 利用率 = (○名 /○名) ＊ 100% =○%							
説明	利用者数は「のべ利用人数」を「開催回数」で割る 利用率は、この利用者数を園児数で割ることで算出							
③	こどもの広場利用率	単位	目標	別　　　紙				
		%	実績					
式	利用者数 =○名 /○ 回 =○名/○回、1回あたりの利用者数は平均で約○名 利用率 = (○名 /○名) ＊ 100% =○%							
説明	利用者数は「のべ利用人数」を「開催回数」で割る 利用率は、この利用者数を園児数で割ることで算出							

事業の目的	幼稚園の中で存分に遊び、心身の健康が保たれ、豊かな感性・社会性などこどもの健やかな成長の支援や保護者の育児負担の軽減をし、幼稚園・保護者・地域が連携しそれぞれの役割を適切に果たしながら一体となってこどもを育てようとする。
事業の内容	幼稚園で通常保育時間外にこどもを預け、保育をうけることができる3歳児対象の「にこにこルーム」、4，5歳児対象の「感性教育わくわくいろいろ遊び」、１５時まで延長保育をする4，5歳児対象の「3時保育」、長期休業中の預かり保育「こどもの広場」を行い、子育て世帯を支援する。また、保育終了後のこどもの遊びの場やかかわりの場を設ける。
成　果	子どもたちの社会性と成長の促進: 午前中の保育と連携した異年齢での集団遊びや表現遊びは、子どもたちの社会性や協調性、思いやりの心を育み、健やかな成長につながっています。また、「楽スポ」との連携により、子どもたちの体力の向上にも大きく貢献した。 子育て世帯への効果的な支援: 預かり保育の参加率は平均で約60%と高く、特に第3学期にはほとんどの子どもが参加しており、その効果は明らか。夏季休業中の預かり保育は、就労していない保護者にとっても心の余裕を生み出し、子育ての喜びをより感じられる機会を提供した。 認定こども園移行に向けた確かな実績: これらの実績は、幼保連携型認定こども園への移行後も、多様なニーズに応える教育・保育を提供できるという確かな根拠となる。これまでの取り組みで培ってきた教育・保育ノウハウは、認定こども園における教育と保育の一体的な提供に活かされ、保護者の就労状況に関わらず、すべての子どもたちに質の高い幼児教育を提供するための基盤となる。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	C
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	幼稚園で通常保育時間外に提供していた「にこにこルーム」や「こどもの広場」といった多様な預かり保育サービスを通じて、子育て世帯を支援してきた。しかし、社会情勢の変化に伴う「幼保連携型認定こども園への移行」という大きな転換期を迎え、以下の点が新たな課題。 サービスの形式変更に伴う職員体制と子育て支援のギャップ これまでの事業は、幼稚園の特性を活かした独自の預かり保育として実施されていたが、認定こども園への移行後は、幼稚園教諭と保育士の双方の資格を持つ職員を確保する必要がある。 子育て世帯に提供してきた支援の内容について、移行後の新たな子育て支援のあり方へ早急に検討する必要がある。 一元化された教育・保育内容への移行と職員の専門性向上 認定こども園では、幼稚園の教育機能と保育所の保育機能を一体的に提供するため、これまでの「にこにこルーム」や「感性教育わくわくいろいろ遊び」といった独自プログラムを幼保連携のカリキュラムとして再構築する必要がある。 この移行には、職員が新たな教育・保育内容を理解し、実践するための専門性向上や研修が不可欠でであり、現状の業務負担の中で十分に時間を確保する必要がある。 以上の課題に対応するため、移行に向けた計画的な職員の確保と育成、そして多様なニーズに対応できる新たな教育・保育体制の構築が求められる。

	評価	今後の方向性
総合評価	C	異年齢での集団遊びや表現遊びを通じて、子どもたちの社会性、協調性、思いやりの心を育み、健やかな成長と保護者の子育て支援という面で成果がある。 幼保連携型認定こども園への移行が予定されていることを踏まえ、これまでの取り組みで培ってきた教育・保育ノウハウを、移行後の新たな体制に活かしていくことが重要。 また、認定こども園の基準に合わせた教育・保育内容へと改善し、保護者の就労状況に関わらず、すべての子どもたちに質の高い幼児教育と保育を一体的に提供できるよう、必要な取り組みを継続的に実施していく。

評価委員の意見	子どもたちの健やかな成長と子育て世帯の支援において、成果を上げているので、今後も多様なニーズに対応し、子どもたちの社会性や協調性を育む質の高い活動を提供していくことを期待します。

■わくわくいろいろあそび利用者数の推移

対象園児（4・5歳児）　　　　　　　　（出典：明日香幼稚園）

	園児	開催回数	延べ利用人数	利用率	
				目標	実績
R4	45名	26回	786名	60.0%	67.2%
R5	36名	15回	344名	60.0%	63.7%
R6	28名	26回	486名	60.0%	66.8%
R7				60.0%	
R8				70.0%	
R9				70.0%	

■にこにこルーム利用者数の推移

対象園児（3歳児）　　　　　　　　（出典：明日香幼稚園）

	園児	回数	延べ利用人数	利用率	
				目標	実績
R4	10名	7回	43名	60.0%	59.2%
R5	9名	69回	456名	60.0%	73.4%
R6	9名	68回	387名	60.0%	63.2%
R7				60.0%	
R8				70.0%	
R9				70.0%	

■こどもの広場利用者数の推移

対象園児（3・4・5歳児）　　　　　　　　（出典：明日香幼稚園）

	園児		回数	延べ利用人数	利用率	
					目標	実績
R6	3才児	9名	22回	59名	50%	27.2%
	4才児	14名	22回	133名	50%	11.2%
	5才児	14名	22回	105名	50%	11.2%
R7	3才児				50%	
	4才児				50%	
	5才児				50%	
R8	3才児				50%	
	4才児				50%	
	5才児				50%	
R9	3才児				50%	
	4才児				50%	
	5才児				50%	

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	学校給食の充実	費目	給食センター費
目　　標	学校給食摂取基準に基づき、児童生徒に必要な栄養素をバランスよく摂取できる献立を提供する。		

（単位：千円）

		R５		R６		R７		R８		R９	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
事業費		73440	66148	107800	90804						
財源内訳	国庫支出金	0	9113	12369	13578						
	県費	0	0	0	0						
	地方債	0	0	24870	24400						
	その他	18160	8077	3700	2903						
	一般財源	55280	48958	66861	49923						

事業の目的	児童生徒に、栄養バランスのとれた給食を安全に提供し、子どもたちの心身の健全な成長に資するとともに、良好な食生活の学びとして食育の推進を図る。
事業の内容	学校給食センターを適切に運営することによって、子どもたちに安全な給食を提供すると共に、給食を通じて、食育に関する指導の実施や、地場産物の活用を高める等、食育の推進に努める。
成　　果	給食による適切な栄養摂取が可能となり、子どもたちの健康の保持増進、適切な身体の育成に寄与するとともに、食材に地場産品を活用することで食に関する正しい知識を高め、良好で望ましい食習慣の育成する。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	A
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	アレルギー体質の子どもたちの増加に伴い、アレルギー食対応を可能とする設備整備と併せて体制づくり・運営形態を検討する。	
総合評価	評価	今後の方向性
	B	栄養面でのサポートおよび、地場産品の活用を通じて、食への感謝や正しい知識・習慣を育むことができた。
評価委員の意見	食への感謝や正しい知識・習慣を育むことは、現代社会においてますます重要性を増しており、子どもたちの現在と未来の健康に寄与しています。	

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	青少年事業（子どもわくわく教室・あすか通学合宿）	費目	社会教育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）			令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	単位	目標					
		実績					

事業の目的	・子どもの下校時の安全確保と地域の大人と子どもの世代間交流。 ・子どもたちが家庭を離れて集団生活を送ることで、日常生活の技能や自立心、協力・我慢・感謝の心を育み、地域全体で子どもを育てる。
事業の内容	子どもわくわく教室：子どもたちの下校時の安全確保、特に小学1年生が単独学年で下校することがないよう下校時間を調節し、複数学年での下校を実施することを目指します。また、地域住民と子どもたちの世代間交流を促進し、地域ぐるみで子どもの安全を見守り、健全育成を図ることを目的に実施。 あすか通学合宿：村の子どもたちが家庭を離れて寝食を共にし、集団生活を通じて日常生活の技能や自立心を高め、協力・我慢・感謝の心を育むことを目指します。また、地域の多様な人々が関わることで、地域の大人同士の連携協力を強化し、地域全体で子どもを育てる意識を高めることを目的に実施。
成　　果	両事業とも、地域の関係団体にご協力頂き運営できている。 地域住民と子どもたちの世代間交流という面で一定の成果がある。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性（事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	C
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性（成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	C
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性（実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	D
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	■子どもわくわく教室 現在、小学1年生の下校時間の調整という側面が強くなっていますが、他学年と協調した下校体制の構築に向け、授業時間調整を含めた抜本的な見直しが必要。 ■あすか通学合宿 あすか通学合宿の実施にあたっては、安全管理、健康管理、衛生管理など、あらゆるリスクを想定した綿密な準備が求められます。また、継続的な実施を支える協力団体や協力者の確保が課題となっている。

	評価	今後の方向性
総合評価	C	「子どもわくわく教室」では理想的な安全対策の実現に向けた学校との連携強化が、「あすか通学合宿」では事業の質の維持と持続可能な運営体制の確立（特に人材確保）が今後の大きな課題であり、継続について考える必要がある。

評価委員の意見	課題にどのように対応し、解決策を見出していくかが、事業の継続のポイントになると思われます。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	青少年事業（20歳を祝う会）	費目	社会教育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	20歳を祝う会参加者	単位	目標	31	28	30	70%	70%
		人	実績	27	36			

事業の目的	成人の日を記念し、社会人としての自覚を高め、これからの人生を力強く自らの判断で歩んでいく20歳を祝い、励ますことを目的とする。
事業の内容	明日香村に住所を有する20歳を対象とし、参加を募る。 成年年齢が18歳に引き下げられたが、本村では20歳の方を対象に式典「20歳を祝う会」を開催する。 ※開催日は毎年、成人の日（祝日：1月第2月曜日）の前日の日曜日
成　　果	R4年度　参加者数38名/対象者45名 R5年度　参加者数27名/対象者40名 R6年度　参加者数36名/対象者44名 対象者の70%の参加を目標とする。

	評価基準	評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A ・村民等のニーズが高く継続すべき事業である B ・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる C ・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある D ・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	B
	効果性 （成果を挙げているか）	A ・十分な成果を挙げている B ・一定の成果を挙げている C ・一部に対して成果を挙げている D ・成果が見られない	B
	効率性 （実施方法は適切か）	A ・実施手法は適切であり、見直しの必要はない B ・実施手法は適切である C ・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である D ・見直しが必要である	B

課題	現状の参加者数を見ると、目標とする70%の参加率には達していない。特に、令和5年度は参加者数が大きく減少しており、参加率のばらつきが見られる。成年年齢が18歳に引き下げられた中で、20歳を対象とした式典の意義や魅力が参加者に十分に伝わっていない可能性があるため、参加意欲の喚起、効果的な情報発信、プログラム内容の魅力について検討する。	
総合評価	評価	今後の方向性
	B	20歳を祝う会の参加率向上と、その意義をさらに高めるため、多角的な情報発信：従来の郵送に加え、SNSでの情報発信強化や、転出しても明日香村にゆかりのある20歳には、可能な範囲で情報が届くよう工夫を凝らす。

評価委員の意見	成年年齢が18歳に引き下げられた現代において、20歳での開催の意義を再確認し、新成人にとってより魅力的で記憶に残る式典となるよう、「参加意欲の喚起」「効果的な情報発信」「プログラム内容の魅力向上」等に重点を置いて改善を進めることが期待します。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	国際理解教育推進事業	費目	総務費
目　　標	生徒の国際理解に関する知識・関心の向上		

（単位：千円）

		R５		R６		R７		R８		R９	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
事業費		10,460	9,718	12,960	9,404						
財源内訳	国庫支出金	6,400	6,400	8,070	5,815						
	県費	1,600	1,600	2,010	1,454						
	地方債										
	その他	1,060	1,060	1,400	1,360						
	一般財源	1,400	658	1,480	775						

事業の目的	国際的な視野をもって、明日香村の新しい時代を切り拓く人材を育成することを目標に、幼稚園から英語に慣れ親しませながら、一貫性のある指導によって、「明日香に根ざした国際人」の育成を図る。
事業の内容	■明日香の風 村内に居住する中学２年生１０名をオーストラリアに派遣し、学校訪問やホームステイを通して英語研修はもちろんのこと、外国の風俗・習慣、文化や自然に触れることで国際理解を深め、コミュニケーション能力を養う機会とすると共に、明日香村の歴史的遺産や自然環境を広く世界にアピールできるグローバルな人材の育成を図る。 ■日韓のかけ橋 聖徳中学校３年生を対象に、１０名を韓国の扶餘郡での現地研修や郡内の中学校へ学校訪問する研修生を募集する。明日香村と扶餘郡の歴史的なつながりを理解し、現地の中学生と異文化交流を図る。引率として、教諭３名が同行する。
成　　果	「明日香の風」において、文化の違いを肌で感じる中で、母国日本、郷土明日香の良さに改めて気づき、明日香で暮らす事を誇りとし、さらに明日香村を世界に発信していこうとする意識の芽生えが感じられた。 「日韓のかけ橋」においては、明日香村の歴史・文化の源流である百済文化の発祥地「扶餘郡」とのつながりを再確認するとともに、学校訪問や現地研修の体験を通して交流を深め、国際理解から郷土明日香をグローバルな視点から情報発信できる人材を育成に寄与していると考える。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性（事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性（成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性（実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	研修生の人数が10名に限定されているため、選考が難航することがあり、より多くの生徒に貴重な海外体験の機会を提供できていない現状があります。今後は、研修の機会を拡大するとともに、公平かつ円滑なプロセスを確立することが課題。	
総合評価	評価	今後の方向性
	B	海外研修プログラムを通じて、「明日香に根ざした国際人」の育成を図れているが、限りある予算の中で、多くの生徒に貴重な経験を提供する方策（修学旅行やWeb等でのネイティブとの交流等）を検討することが必要。
評価委員の意見	プログラムの質を維持しつつ、より多くの生徒が国際体験の機会を得られるよう、規模の拡大や多様な選択肢の提供に向けた検討を進めていただきたい。	

事務事業点検評価

（新規・継続・完了）事務事業名	継続				所管課	教育推進課			
	人権教育の推進				費目	人権教育振興費			
目　　標	「人権が尊重される社会の実現」を目指す								（単位：千円）

		R５		R６		R７		R８		R９	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
事業費		690	550	690	200						
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0						
	県費	0	0	0	0						
	地方債	0	0	0	0						
	その他	0	0	0	0						
	一般財源	690	550	690	200						

事業の目的	すべての村民が人権を再認識し豊かな人権感覚を醸成し、人権を尊重する社会の実現に向け、人権教育の推進を図る。
事業の内容	各種団体が構成メンバーである人権教育推進協議会会員、各大字総代および大字推薦者を対象として人権教育学習会を実施。 令和６年１２月～令和７年２月において全３回実施。参加者延べ１１４人
成　　果	人権教育学習について、新型コロナウイルス感染症拡大が理由で3年間中止となっていたが、人権学習講座を再開し、多くの村民の皆様の参加をいただき、理解を深めた。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性（事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性（成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性（実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	講座や講演会等の実施にあっては、最近の社会情勢等も鑑み身近なテーマや村民が興味や関心をもって参加しやすい講座の開催や事業展開を行っていく必要がある。	
総合評価	評価	今後の方向性
	B	村民の人権における正しい理解と認識を高め「すべての村民が人権を再認識し豊かな人権感覚を醸成し、人権を尊重する社会の実現」という明確な目標を掲げ、取り組み人権教育の促進を図った。

評価委員の意見	人権意識の浸透させることが期待し、明日香村全体で人権が尊重される、より豊かで包摂的な社会の実現に一層貢献できるよう期待します。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	総合型地域スポーツクラブ運営支援	費目	保健体育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	住民基本台帳人口×１０％	単位	年度末人口	5,114	5,027			
			目標	511	503			
		人	実績	512	483			

事業の目的	すべての村民にスポーツ活動への参加意欲を喚起し運動の楽しさ、興味を抱かせる環境を整え、体力向上や健康づくりの機会を提供するとともに、仲間づくりや住民交流の場とする。また、スポーツを切り口に集客を図り、明日香の魅力発信を行うとともに地域の活性化を図る。
事業の内容	【総合型地域スポーツクラブ運営支援】　たの 総合型地域スポーツクラブ「ＮＰＯ法人楽スポあすか」の運営にあたり、必要な財源の確保と事務局職員の配置、運営にかかる助言指導等を行った。 楽スポあすかでは、多岐にわたるスポーツ教室やクラブ活動、イベントなどを実施。 ＜教室＞ キッズ親子体操、キッズフィットネス、小学生サッカー、小学生ソフトテニス、新体操、チアリーディング（小学生・中学生）、バレーボール、さわやか健康体操、ボディコンディション体操、ヨガ、ボルダリング、フットサル、バドミントン、卓球、HIPHOPダンスなど、幅広い年代・レベルに対応した教室がある。 ＜チーム＞ 明日香小野球部、明日香村バレーボールクラブ、明日香村グラウンド・ゴルフ協会、明日香村ゲートボール、明日香ソフトテニスクラブなどのクラブチームも活動している。 ＜学校・園との連携＞ 明日香幼稚園や明日香小学校への出前教室を展開し、子どもたちの基礎体力向上や運動の楽しさを伝えている。 聖徳中学校へ部活動の外部コーチを派遣し、部活動の充実にも貢献している。 また、部活動地域移行に伴う地域移行クラブについても随時対応している。
成　　果	NPO法人楽スポあすかでは、広く村民がスポーツに親しむ機会を創出し、提供している。 さらに、小中学校からの要請に応じて、専門的な指導者を派遣し、学校教育を支援している。特に、教員だけでは対応が難しい体操、陸上、ダンス、柔道といった授業や部活動において、専門性の高い指導で子どもたちの成長をサポートしている。 設立当初から「村民人口の1割を目標」に会員を募集し、村民の皆様の健康維持と体力向上に大きく貢献している。 運営面では、独自の財源確保にも力を入れている。各種補助金の積極的な活用に加え、新規会員や賛助会員を増やすための魅力的な事業展開や教室運営の工夫を凝らしている。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	A
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	楽スポあすかの安定的な運営には、特に20代から30代の成人会員の獲得が不可欠です。しかし、コロナ禍以降、0歳から19歳の会員減少が顕著であり、若年層の参加意欲を高めるための対策が急務となっている。 魅力ある教室や事業を展開し、会員数の維持・増加を図るためには、質の高い指導者や事務局員の確保と育成が喫緊の課題です。また、組織運営の基盤を強化するため、自主財源の確保も並行して進めていく必要がある。

総合評価	評価	今後の方向性
	A	引き続き、新規会員や賛助会員の獲得に向けた魅力的な事業展開や、参加者のニーズに応じた教室運営の工夫を継続的に行っていく。また、中学校部活動の地域移行への対応を期待したい。また、各種補助金の積極的な活用に加え、これらの取り組みにより、更に地域に根差した持続可能なスポーツ振興の基盤を確立を図った。

評価委員の意見	多岐にわたる質の高いプログラム、学校教育との密接な連携は、持続可能な地域社会の実現に大きく貢献しており、さらに多くの村民がスポーツを通じて豊かな生活を送れるよう期待します。

■楽スポ会員数の推移

（単位：人、出典：ＮＰＯ法人楽スポあすか）

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
0歳～19歳	197	192	221	231	245	236	214	177	181	180	157	147
20歳～39歳	58	58	63	60	70	59	69	59	62	49	59	60
40歳～59歳	115	103	117	114	145	138	126	120	111	111	106	88
60歳～79歳	104	116	120	131	142	146	162	146	165	152	148	148
80歳～	13	14	16	17	27	30	31	35	35	43	42	40
合計	487	483	537	553	629	609	602	537	554	535	512	483

２０代から５９代の年齢層が、少ないことが課題。

■近隣公園利用者数の推移

（単位：人、出典：明日香村教育推進課）

区　　分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
多目的グラウンド	990	3, 891	9, 378	9, 383	9, 939	9, 672	10, 294	11, 240	15, 413	5, 972	4, 709	15, 145
テニスコート	1, 331	4, 502	8, 254	7, 540	7, 378	5, 572	3, 551	4, 567	6, 887	3, 346	5, 606	5, 749
合　　計	2, 561	8, 453	17, 834	17, 348	17, 672	15, 354	13, 955	15, 907	22, 400	9, 568	10, 315	20, 894

■各種スポーツ大会参加者数の推移

（単位：人、出典：明日香村教育推進課）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
飛鳥ﾊｰﾌﾏﾗｿﾝ	―	―	―	―	―	―	―	―	2, 726	2, 587	2, 685	2, 869
球　技　大　会	265	237	215	155	199	179	174	（中止）	（中止）	57	32	88
軽 ス ポ ー ツ	95	120	112	72	69	74	81	（中止）	28	25	32	34
村　　体	（中止）	800	1, 200	1, 200	1, 200	1, 200	1, 500	（中止）	（中止）	（中止）	1, 000	1, 000
運　動　会	―	―	―	―	―	―	―	―	―	650	―	―
ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝﾌｪｽ	―	―	―	―	―	―	―	―	262	―	―	―
駅　伝　大　会	349	438	364	353	272	460	500	（中止）	（中止）	171	199	199
合　　計	709	1, 595	1, 891	1, 780	1, 740	1, 913	2, 255	0	3, 016	3, 490	3, 948	4, 190

※球技大会：ソフトボール、グラウンド・ゴルフを実施。
※軽スポーツ大会：グラウンド・ゴルフを実施。
※R4年度は村民体育祭の代替えとして、自由参加型の運動会を実施。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	飛鳥ハーフマラソン	費目	保健体育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	エントリー数	単位	目標	3, 000	3, 000	3, 000	3, 000	3, 000
		人	実績	3, 048	3, 272			

事業の目的	明日香村の豊かな歴史的風土と自然環境を活かし、来訪者にとって魅力的な「明日香まるごと博物館」の実現を目指すとともに、スポーツイベントを通じた地域住民の健康増進、村内外の人々の交流促進、および地域経済の活性化に寄与すること。
事業の内容	開催日時：令和7年3月9日（日）。募集人数3, 000名に対し、3, 272名がエントリーし、募集期間より早く締め切った。当日出走は2, 869名で、完走率は98. 6%でした。 事前イベントとして、スロージョギング®教室やオンラインセッションを開催し、奈良マラソン会場での広報も実施した。
成　　果	ランナー満足度向上：紙コップなし給水、女性エリアの配慮、沿道からの温かい応援が好評でした。名物「あすかルビー」の提供やフェスタも喜ばれた。 安全・運営体制の改善：警備・交通に関する苦情件数（10件、警備員直接対応1件）が減少し、救護対応件数も31件と大幅に減少しました。これは過去の対策や天候に恵まれたことが功を奏した。 大会の認知度・ブランド力向上：約1500の大会の中から「大会100撰」に2年連続で選出され、明日香村の魅力発信に大きく貢献した。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	■実行委員会事務局の業務負荷の平準化 年間を通して業務は発生するものの、特に12月から3月にかけて業務量が大幅に増大するため、人員配置の見直しや業務プロセスの改善が喫緊の課題となっている。 ■大会運営におけるリスク管理（雨天対策） 幸いなことにこれまで天候に恵まれてきたが、今後は不測の事態に備え、雨天時の会場運営や参加者の安全確保といったリスク管理体制の強化が不可欠。 ■大会開催と地域コミュニティとの調和 大会の成功は地域住民の協力が不可欠。開催期間中、住民生活への影響を最小限に抑え、大会への理解と協力を得るためのコミュニケーションを継続していくことが重要。

総合評価	評価	今後の方向性
	B	これまでの大会運営で培ってきた経験やノウハウを確実に継承していく必要があります。同時に、事務局スタッフの育成を強化し、運営体制を盤石にしていく。また、大会を支える関係団体やボランティアの方々との協力関係を、協賛企業との良好な関係を継続し、大会運営を多角的に支援いただける体制を維持してく。

評価委員の意見	高い集客力、参加者満足度、安全管理体制の改善努力により、明日香村の魅力を発信するできており、「全国ランニング大会100撰」への連続選出は、その成果である。様々な課題は、今後の事業の持続的発展のために重要であるが、着実に克服し、さらに地域に根差した魅力的なイベントとして発展していくことを期待します。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	社会体育施設	費目	社会教育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）		単位	目標/実績	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	利用者数	人	目標					
			実績	(参考)10,315	20,894			

事業の目的	明日香村の社会体育施設は、村民の日常生活におけるレクリエーション活動、健康増進、および生涯学習の拠点を提供することを目的としている。
事業の内容	①社会体育施設及び学校開放施設の管理及び貸出。 ＜社会体育施設＞ 近隣公園（多目的グラウンド・テニスコート等）、屋内ゲートボール場 ＜学校開放施設＞ 聖徳中学校運動場、聖徳中学校体育館、明日香小学校運動場、明日香小学校体育館 ②子どもから高齢者までがスポーツに親しみ、楽しく健康づくりができる環境を整備するとともに、災害時には避難地としても機能する公共の場として、村民の安心・安全に寄与する役割も担っている。
成　果	多目的グラウンド利用者数　15,145人、テニスコート利用者数　5,749人 屋内ゲートボール場　2,587人、 中学校グラウンド　1,487人、中学校体育館　1,892人 小学校グラウンド　4,425人、小学校体育館　7,360人 施設利用者は増加傾向にあり、１度の利用予約で確保可能な枠数を制限している。 特に屋内ゲートボール場、テニスコートの人気が高い。

	評価基準	評価内容	評価
基本評価	継続性（事業を継続すべきか）	A ・村民等のニーズが高く継続すべき事業である B ・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる C ・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある D ・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	B
	効果性（成果を挙げているか）	A ・十分な成果を挙げている B ・一定の成果を挙げている C ・一部に対して成果を挙げている D ・成果が見られない	B
	効率性（実施方法は適切か）	A ・実施手法は適切であり、見直しの必要はない B ・実施手法は適切である C ・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である D ・見直しが必要である	B

課題	定期的な点検と適切な設備更新の継続性 近隣公園の多目的グラウンドや子どもの遊び場の遊具など、利用者の利便性と安全確保のため、施設・設備の定期的な点検と適切な更新が継続的に必要。 また、除草作業とともに、樹木の剪定も定期的に行う必要が出てきた。	
総合評価	評価	今後の方向性
	B	定期的な点検を実施し、施設の使用状況を把握した上で、計画的に修繕を含む維持管理を進めることができた。

評価委員の意見	施設の老朽化対策としての定期的な点検と設備更新、そして維持管理作業の効率化と品質維持に重点を置くことで、長期にわたって村民に安心・安全で快適なスポーツ・レクリエーションの場を提供し続けることを期待します。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	中央公民館講座・活動	費目	公民館費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）		単位		令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	参加者数	人	目標					
			実績	2, 430	2, 726			

事業の目的	住民の教養・文化・健康の向上を目的に、幅広い種類の講座を開講し、住民が生涯にわたり、いつでも気軽に活動できる学習活動の場を提供する。
事業の内容	【史学文学講座】関西大学から講師を招き、飛鳥の歴史講座を開催する。（月1回開催） 【公民館講座（単発）】子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に、クラフトや健康など様々な講座を開催する。（年5回開催） 【公民館講座（年間）】講師を招き、年間を通じて講座を開講する。（陶芸講座、英会話初級・中級、手話講座）
成　　果	【史学文学講座】年間延べ　1, 929名 【公民館講座（単発）】年5回延べ　133名/年間 【公民館講座（年間）】年間延べ　664名 各種講座を通じて、村民が生きがいを発見したり、新しい知識や技術を習得したりする機会を創出している。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	
課題			講座の開催も施設の利用も年間を通じて安定している点は良いことだが、一方で利用者が固定化している傾向にあるとも言える。現状の施設利用と競合することなく、新しい講座の開拓や新規利用者への働きかけも必要。	

総合評価	評価	今後の方向性
	B	定期講座は引き続き継続しつつ、単発講座などはニーズを踏まえて取り入れている。また、施設については、適宜点検・修繕を行いながら維持管理を進めている。

評価委員の意見	地域資源を活かした独自の歴史講座から、多様な単発・年間講座まで、幅広い学習機会を提供し、安定した運営と利用実績がある。引き続き、村民の学習意欲に応え、文化的な生活を支援する上での貢献を期待します。

■公民館講座等参加者数の推移

（単位：人、出典：明日香村教育推進課）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
飛鳥史学文学講座	1, 666	1, 316	1, 246	1, 311	1, 451	1, 593	1, 492	1, 265	1, 565	2, 008	1, 826	1,929
ふるさと歴史講座	139	144	147	187	202	145	108	82	11	47	10	
匠講座：陶芸講座	72	90	102	96	114	102	120	90	66	96	66	84
匠講座：ガラス工芸						30	42	42	48			
英会話（初）講座	285	315	285	315	266	168	196	182	154	196	240	238
英会話（中）講座	270	255	225	168	182	182	140	98	84	140	75	112
手話講座								84	161	184	184	230
公民館講座（単発年５回）												133
自分へのごほうび講座				77	56	47	33	32				
親子わくわく教室		24	18	20	54	28	25	34	32	5	5	
手話講座								144	161	6	24	
合計	2, 432	2, 144	2, 023	2, 174	2, 325	2, 295	2, 156	2, 053	2, 282	2, 682	2, 430	2, 726

■図書室利用者数の推移

（単位：人、出典：明日香村教育推進課）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
中学生以下	1, 205	1, 241	1, 138	944	788	855	730	695	864	621	500	-
高校生	477	133	81	8	10	48	39	16	24	47	9	-
一般	2, 915	3, 242	3, 501	3, 244	3, 081	3, 086	2, 470	2, 426	2, 804	2, 313	2, 102	20, 200
合計	4, 597	4, 616	4, 720	4, 196	3, 879	3, 989	3, 239	3, 137	3, 692	2, 981	2, 611	20, 200

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	図書室管理	費目	公民館費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）		単位		令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	利用者数	人	目標		15,500	20,000	20,000	20,000
			実績	2,611	20,200			

事業の目的	いつでも必要な情報を得ることができる「知の拠点」としての役割を充実させるとともに、村民の「生涯学習活動」を支援し、人や情報の交流を生み出す「交流拠点」として、多くの村民に親しまれる図書室を目指す。
事業の内容	一般書、児童書を中心に書籍及び電子書籍を貸し出す。 月に１度のお話し会イベントや、健康こども福祉課との事業連携により、子どもや保護者が読書に触れる機会を創出する。 多世代交流を意図したイベントや特集を定期的に開催する。
成　　果	R6年5月に図書室を健康福祉センター内へ移転したことで、これまでに図書室利用がなかった村民への利用促進が図れた。（R6年度の図書室への来室者数は20,200名） 楽しいお話し会参加者数　毎回10組程度（月1回開催）※ボランティア団体によるイベント 教えて！推し本　応募数78件（年1回開催）※図書室利用者による本の紹介展示

	評価基準	評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A ・村民等のニーズが高く継続すべき事業である B ・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる C ・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある D ・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	B
	効果性 （成果を挙げているか）	A ・十分な成果を挙げている B ・一定の成果を挙げている C ・一部に対して成果を挙げている D ・成果が見られない	B
	効率性 （実施方法は適切か）	A ・実施手法は適切であり、見直しの必要はない B ・実施手法は適切である C ・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である D ・見直しが必要である	B

課題	村民に広く図書室の存在を知ってもらい、利用を促進するためには、村のホームページや広報紙を通じた積極的なアピール、本の読み聞かせや企画展示の充実が継続的に求められる。	
総合評価	評価	今後の方向性
	B	来室者数の大幅な増加と、多世代交流を促すイベントの実施は、地域コミュニティに根差した事業展開ができた。

評価委員の意見	積極的な広報活動と、企画展示・読み聞かせといったイベントを継続的に実施することで、図書室がより多くの村民にとって不可欠な存在となり、明日香村の生涯学習と地域交流に寄与することを期待します。

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続 文化芸術事業 芸術文化の振興	所管課	文化財課
		費目	生涯学習総務費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）		単位		令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	「明日香の匠」展入場者数	人	目標	2,400	2,700	3,000	3,000	3,000
			実績	2,536	2,845			

事業の目的	村民が広く芸術文化に親しむ機会を創出する。 文化活動を通じて世代を超えた住民交流を推進する。 伝承芸能の継承と発展。 芸術面からの飛鳥の魅力を発信する。
事業の内容	村民が芸術文化に触れる機会の創出。村を拠点に活動する作家の作品発表の場の提供。文化芸術を通した村民交流。 ・「明日香の匠」展　明日香村を拠点に活動する芸術家による美術展（公募） ・飛鳥アートヴィレッジ　村外在住の若手作家による現代アート展（公募） ・文化祭（芸能大会・美術展）　村在住・勤務者、伝承芸能保存会員、公民館クラブ会員、文化協会員、幼少中学生による発表会 ・伝承芸能保存会　『万葉集』『古事記』『日本書紀』に起源を持つ伝承芸能の継承発展（八雲琴・万葉朗唱・南無天踊り・飛鳥蹴鞠） ・万葉集研究の第一人者である犬養孝氏を顕彰する「南都明日香ふれあいセンター犬養万葉記念館」の運営 ・万葉文化事業　『万葉集』に親しむ講座・講演会・ハイキングなどイベント事業を開催
成　果	・「明日香の匠」展　芸術文化に触れる機会の創出、村内外の芸術家による交流促進、若手作家の掘り起こし、開催会場周辺施設の観光閑散期対策につながっている。 ・飛鳥アートヴィレッジ　R６年度はアートマネジメント会社に企画検討を委託したことで、無理がない現実的なイベントの企画につながった。 ・文化祭　文化活動を通じて世代を超えた住民交流ができた。物づくりや出演に向けた練習が高齢者の喜びにつながっている。 ・伝承芸能保存会　コロナ禍に減少したイベントが復活し、村内外イベントに積極的に参加している。これらが事業周知及び活動費確保に繋がっている。 ・犬養万葉記念館の運営　R６年度は施設の運営に積極的な指定管理業者が確保できた。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	■「明日香の匠」展の活性化 来場者を一時的な「浮動客」から継続的な「固定客」へと転換させるための施策が必要である。また、展示会場である奈良県立万葉文化館との連携を強化し、効果的な事業周知方法を確立することが課題。 ■飛鳥アートヴィレッジの再構築 イベントのコンセプトやスケジュールを明日香村の魅力にふさわしいものに改善し、より多くの人々に楽しんでもらえる芸術イベントへと発展させる必要がある。 ■文化祭の世代交代 実行委員、参加者、来場者の高齢化が進んでいる。若者が積極的に参加したくなるような企画や運営方法を取り入れ、世代交代を図ることが喫緊の課題。 ■伝承芸能保存会の持続可能性 後継者の確保と育成が課題であり、このままでは伝承芸能が途絶える恐れがある。また、事業を継続するための財源を確保する仕組みを構築する必要がある。 ■犬養万葉記念館の運営支援 安価な指定管理料で運営を担う民間企業に対し、適切なフォローアップを行い、安定した運営を支援していく必要がある。 ■万葉文化事業の新規参加者獲得 イベント参加者が固定化しているため、新規の参加者を呼び込むための新たな周知方法を確立することが課題。事業の魅力を広く発信し、多様な層の参加を促す必要がある。	
総合評価	評価 B	今後の方向性 工夫すべき点も残っているが、現在の実施手法で問題ないため、今後も同内容で継続していく
評価委員の意見	飛鳥の魅力を発信していく上で、村民が芸術文化に触れる機会の創出として、現在の実施手法で問題ないため、今後も同様の内容で継続してください。	

■文化・芸術イベント来場者数の推移

（単位：人、出典：明日香村文化財課）

年　度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
「明日香の匠」展	－	2,114	1,641	1,700	1,740	2,023	1,863	1,876	2,037	2,584	2,536	2,845
音　の　風　景	－	220	230	230	220	210	260	－	－	－	－	－
飛鳥アートヴィレッジ	834	－	－	610	612	－	1,200	－	－	－	－	－
合　計	834	2,334	1,871	2,540	2,572	2,233	3,323	1,876	2,037	2,584	2,536	2,845

飛鳥アートヴィレッジ

※H26：屋外展示のため、来場者数を集計できなかった。

※H27：事業未実施

※H30：2カ年事業の1年目で、作品展示等は行っていない。

※R1：犬養万葉記念館入館者のみカウント

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	文化財課
	発掘調査事業 文化財の調査研究	費目	発掘調査費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	発掘調査面積	単位	目標	200	200	200	200	200
		㎡	実績	358	275.5			

事業の目的	埋蔵文化財は、村の歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない歴史的遺産であり、開発事業との円滑な調整を図りつつ、住民の理解と協力を得ながら、適切に調査研究を実施し、保存活用する。村内で行われた遺跡調査や飛鳥地域の最新の研究成果を公表し、文化財の価値と魅力を多くの方に知ってもらう。
事業の内容	【発掘調査】 ・個人住宅等（豊浦寺跡・藤原京跡）40.5㎡・範囲確認（甘樫丘遺跡群）235㎡ ・『明日香村遺跡調査概報令和５年度』の刊行(300部) 【文化財調査研究紀要発行事業】 ・『文化財調査研究紀要』第24号の発行
成　　果	発掘調査は、個人住宅等に伴う事前の発掘調査と甘樫丘遺跡群の範囲確認調査を実施し、文化財保護と開発計画の調整を図った。また、その成果について概要報告書を発行し公表に努めた。 村内に所在する遺跡や文化財についての論考を掲載した研究紀要を刊行し、調査研究で得られた成果をより深化させ、飛鳥地域の新しい歴史的事実を示すことができた。職員の資質向上、新しい飛鳥の魅力創出、飛鳥文化解明の一助にもなっている。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	A
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	甘樫丘遺跡群の発掘調査が進められ、着実に考古学成果が得られているものの、明日香村の新たな魅力の発信として、また、文化財の保存と活用に向けてのさらなる検討が求められる。 また、考古資料以外の文化財、例えば歴史的建造物や村内の古民家等に所蔵されている古文書・民具等の歴史文化資源については、専門的知識を有する人材が確保されておらず、十分な調査がおこなえていない。

総合評価	評価	今後の方向性
	B	今後も構成資産を磨き上げ、価値をさらに向上させるよう体制を充実させ調査研究を継続する。

評価委員の意見	住宅建築等に伴う事前発掘調査は、住民に十分理解と協力を得ながら適切に調査を実施し、範囲確認調査については、引き続きその価値と魅力を証明して公表してもらいたい。

■国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開　来場者数　（単位：日・人）

区分	開　催　期　間		開催日数	来場者数
1	令和6年5月18日（土）	5月24日（金）	7	1,171
2	令和6年7月27日（土）	8月2日（金）	7	1,101
3	令和6年10月12日（土）	10月18日（金）	7	1,144
4	令和7年1月18日（土）	1月24日（金）	7	1,074

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続	所管課	文化財課
	保存整備活用事業 文化財の保存と活用	費目	文化財保護費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	来場者数（石舞台、高松塚壁画館、キトラ古墳四神の館、万葉文化館、飛鳥資料館）	単位	目標	602, 000	450, 000	460, 000	470, 000	480, 000
		人	実績	440, 000	466, 000			

事業の目的	「明日香村まるごと博物館」や「世界遺産登録」に向けての取り組みとして、構成資産をはじめとする文化財を適切に保存し、その価値をさらに向上させるよう活用していく。合わせて、飛鳥宮跡や中尾山古墳、高松塚古墳壁画保存公開施設について体感できる整備を行い、世界遺産登録へと繋げていく。
事業の内容	【飛鳥宮跡保存活用事業】 ・史跡追加指定・公有化の促進と、奈良県設置の活用検討委員会での計画策定。 ・史跡指定：44, 900㎡、公有化：35, 022㎡（令和6年度末現在） 【古墳整備活用事業】 ・中尾山古墳整備基本設計策定 ・牽牛子塚古墳竹林整備　2, 060㎡ 【世界遺産登録推進事業】 ・「飛鳥・藤原の宮都」推薦書及び包括的保存管理計画の作成 （世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会） 【古墳壁画の保存活用】 ・高松塚古墳壁画修理（～令和元年度末完了）、仮称）保存管理公開活用施設の検討 ・キトラ古墳壁画公開（観覧者数：25, 767人・第31～34回） ・高松塚修理施設公開（観覧者数：　4, 490人・第45～48回） ・四神の館（来館者数：124, 790人）
成　　果	飛鳥宮跡の史跡地指定は全体100%完了し、公有化は78%まで進んでいる。また、奈良県で「飛鳥宮跡活用検討委員会」を設置し、整備基本計画を策定した。 中尾山古墳は発掘調査成果を踏まえ、整備基本設計の策定を行った。 世界遺産は、構成資産資産候補の史跡追加指定や公有化を実施し保護措置の充実を図った。令和6年9月の国内推薦決定を受け、推薦書類を完成させ、令和7年1月に正式版推薦書が日本国政府からユネスコに提出された。 古墳壁画の公開活用が継続され、高松塚古墳壁画については文化庁において（仮称）保存管理公開活用施設の検討が進められている。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	世界遺産では、構成資産の適切な保存管理を継続するとともに、今後、登録後を見据えたインタープリテーション及びプレゼンテーションについての検討が必要である。 高松塚古墳壁画の保存公開施設の事業化の推進、飛鳥宮跡・飛鳥京跡苑池の公開活用に向けた整備検討について、国・県と連携して実施する必要がある。 中尾山古墳については、継続してモニタリングを行いながら、万全の保護措置を行い、その価値をわかりやすく伝えられるよう、保存と公開の在り方について検討が必要である。	
総合評価		今後の方向性
	B	確実な保存管理を行うとともに、効果的な活用を継続していく。
評価委員の意見	埋蔵文化財は貴重な共有財産であり、調査研究実施後大切に保存するとともに、できるだけ公開をするなど活用に努める必要がある。	

牽牛子塚古墳来場者数

	R4	R5	R6
来場者数	36,122	39,360	47,045

事務事業点検評価

（新規・継続・完了） 事務事業名	継続 飛鳥の魅力発信事業 明日香村歴史資産の魅力発信	所管課 費目	文化財課 飛鳥京保存対策費　歴史的風土創造的活用対策費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）		単位		令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	日本遺産「飛鳥」に関する講座・イベント数	回	目標	25	26	27	28	29
			実績	25	28			

事業の目的	村内で行われた発掘調査の成果や飛鳥地域の最新の研究成果を公表し、文化財の価値と魅力を多くの方に知ってもらう。さらに日本遺産「飛鳥」や「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を目指し、国内外に広く発信する。
事業の内容	【歴史文化資源魅力発信事業】 ・飛鳥の考古学ハンドブック「飛鳥考古学の軌跡ー宮殿編ー」の発行 【全国講演会】 ・第28回明日香村まるごと博物館フォーラム 有楽町よみうりホール(東京)　3/20　550名 ・明日香村文化財連続講座　東京まほろば館（東京）2回　2/4 100名、3/31 100名 ・かんだい明日香まほろば講座（東京）3回　7/9 274名、10/8 103名、1/14 99名 ・明日香村発掘調査報告会　明日香村中央公民館（明日香村）　3/31　200名 【世界遺産登録推進事業】 ・講演会いざ世界へ！「飛鳥・藤原の宮都」かしはら万葉ホール（橿原市） 2/8（世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会） 【古代飛鳥再現事業】 ・伎楽再現プロジェクトの実施 【アサガオプロジェクト】 ・牽牛子塚古墳の公開（一般入場者数　47,075人） ・アサガオの植栽、牽牛子塚古墳ライトアップ 【日本遺産魅力発信事業】 ・日本遺産等のイベントの参加（参加イベント28回） ・ノベルティグッズの配布による普及啓発
成　　果	講演会の開催等により、飛鳥地域の発掘調査の成果をいち早く、わかりやすく伝えることができる機会として、好評を得ている。 伎楽再現プロジェクトについては、小学校への啓発、伎楽子ども教室、子ども向け伎楽お面づくり教室を開催し、新たな文化の創造に取り組むことができた。 令和４年３月から共用を開始した牽牛子塚古墳は、越塚御門古墳でのプロジェクションマッピング、被葬者や飛鳥時代を追体験できる映像コンテンツを鑑賞できる特別公開を行ない、多くの来訪者が訪れるスポットとなっている。竹林整備や隣接地の園路整備により。飛鳥周辺の活性化に繋げる拠点としての機能が高まっており、アサガオの植栽やライトアップにより、多くの来訪者に魅力を発信することができた。 日本遺産「飛鳥」の各種イベントでの啓発、講座・講演会等の参加や、ストーリー映像の上映、読本の閲覧により、認知度を高めることができた。構成文化財の整備による遺跡の見える化、語り部やプロガイド等の人材育成、啓発を重点的に実施した。

	評価基準		評価内容	評価
基本評価	継続性 （事業を継続すべきか）	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 （成果を挙げているか）	A	・十分な成果を挙げている	A
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 （実施方法は適切か）	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	

課題	文化財の価値や魅力をより多くの方に知ってもらうためには近隣市町との広域連携のみならず地方との結びつきや、わかりやすい展示方法にするなどの工夫が必要である。さらに講演会等の開催にあたっては、同地域・同種事業との調整も必要である。 日本遺産「飛鳥」の魅力発信のため、文化庁や他の認定団体、観光部門との強力な連携が必要である。	
総合評価	B	今後の方向性 『飛鳥・藤原』の宮都の世界文化遺産登録に向け、歴史文化資源を通じて、飛鳥の魅力を全国に発信するとともに、歴史的風土の保存と活用への理解・協力を求め、後世へ適切に継承する。
評価委員の意見	村の文化財の価値や魅力をさらに国内外の多くの方に発信し、『飛鳥・藤原』の宮都の世界文化遺産登録に向けて、各種事業を積極的に進めてください。	

令和6年度　日本遺産関連イベント等一覧

日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会

【イベント】

項　　　目	開催日（期間）	開　催　場　所	主催者等	種　別	参加者	備　考
日本列島心のふるさと観光展	4/4(木)～4/18(木)	みちまちスクエア（大阪駅付近地下広場）	NPO日本列島夕陽と朝日の郷づくり協会	明日香村	400名	パンフレット設置
関西のインフラ強化を進める会（第21回）	4/16(火)	大阪キャッスルホテル７階	関西のインフラ強化を進める会	明日香村	70名	村長講演（総合政策課出席）
差別をなくす町民集会	6/7（金）	リベルテホール	高取町	高取町	200名	日本遺産コーナー設営（文化財動画、パンフレット、のぼり旗）
あべてんフェス	6/15（土）、6/16（日）、6/17（月）	天王寺公園エントランスエリアてんしば	株式会社アド近鉄	明日香村	未公開	粘土ワークショップ　400名 チラシ・グッズ等の配布　600部
おいでや！いなか暮らしフェア2024	7/20（土）	OMMビル　２階ホール	認定NPO法人 ふるさと回帰支援センター	橿原市	47名	コースター配布
姫路グランフェスタ観光展	7/20(土)～8/2(金)	グランフェスタ姫路	NPO日本列島夕陽と朝日の郷づくり協会	明日香村	400名	パンフレット設置（無人）
開園５０周年記念イベント 「推し飛鳥人総選挙」	7/22(月) ～11/30（土）	国営飛鳥歴史公園ほか	国営飛鳥歴史公園	明日香村	26,704名	WEB投票者を含む 一位は持統天皇3223票
奈良のトビラ（第3弾）	7/26(金)～28(日)	滋賀県大津市ブランチ大津京ハッシュタグ大津	奈良のトビラ合同会社	明日香村	100名	パンフレット設置
楽しい奈良再発見	7/31(水)～8/12(月)	近鉄百貨店　橿原店　6回　催会場	近鉄百貨店	明日香村	600名	ポスター、パンフレットの設置
しごとフェスタ　2024	8/3（土）	ポリテクセンター奈良	奈良労働局・ハローワーク	橿原市	501名	パネル展示、パンフレット配布
奈良県主催の首都圏旅行会社・出版社向け商談会	8/30(金)	奈良まほろば館	奈良県	明日香村	60名	日本遺産パンフレットの配布
ストリートファイター６　ペア対戦イベント	9/7（土）・9/8（日）	イオンモール橿原	橿原市	橿原市	1,040名	パンフレット配布
奈良のトビラ（第4弾）	9/21(土)～23(月)	宮城県仙台市 青葉山公園仙臺緑彩館	奈良のトビラ合同会社	明日香村	200名	パンフレットの設置
ふるさと回帰フェア2024	9/21（土）・9/22（日）	東京国際フォーラム	認定NPO法人 ふるさと回帰支援センター	橿原市・明日香村	31名	コースター配布
ツーリズム EXPO ジャパン 2023	9/25（水）・9/26（木） 9/27（金）・9/28（土）	東京ビッグサイト	公益社団法人 日本観光振興協会 一般社団法人 日本旅行業協会 日本政府観光局(JNTO)	協議会	182,934人	チラシ・グッズ等の配布500部
第12回おもしろ歴史フェスティバル	9/28（土）･9/29（日）	唐古・鍵遺跡公園	歴史フェスティバル実行委員会（奈良新聞社）	協議会	6,000人	粘土ワークショップ チラシ・グッズ等の配布300部
文化庁芸術祭 「おこしやす芸術祭～京から発信、日本文化に触れる～」	10/1（火）	京都府京都市左京区岡崎最勝寺町１３　ローム・スクエア	文化庁	協議会	700人	粘土ワークショップ100名 チラシ・グッズ等の配布100部
令和の万葉大茶会	10/12(土)	宮城県多賀城市	令和の万葉大茶会実行委員会	明日香村	200名	パンフ設置
日本遺産フェスティバル	10/26（土）・10/27（日）	福島県会津若松市	日本遺産事務局	協議会	564,831人	粘土ワークショップ チラシ・グッズ等の配布600部
奈良県宿泊施設立地セミナー2024in東京	11/13(水)	東京マリオットホテル	奈良県産業部　産業創造課　宿泊施設誘致係	明日香村	80名	PRブース
第５回全国万葉故地サミット越前市大会	11/16(土)～11/17(日)	越前市いまだて芸術館	越前市・越前市教育委員会	明日香村	150名	参加者へパンフレット配布
日本女性会議2025　橿原プレ大会	11/16（土）	かしはら万葉ホール	橿原市	橿原市	626名	パネル展示、パンフレット配布

項　　　目	開催日（期間）	開　催　場　所	主催者等	種　別	参加者	備　考
たかとり城まつり	11/23（土）	土佐街道および児童公園	城まつり 実行委員会	高取町	800人	パンフレット配布
古墳フェスはにこっと	11/24（日）	今城塚公園・いましろ大王の社 大阪府高槻市郡家新町48－8	はにコット実行委員会事務局	明日香村	38,000人	粘土ワークショップ200名 チラシ・グッズ等の配布200部
生物多様性保全活動	11/30(土)	牽牛子塚古墳周辺	明日香村	明日香村	40名	参加者へパンフレット配布
奈良で働くセミナー・相談会2024	12/7（土）	東京交通会館	奈良県・橿原市	橿原市	12名	コースター配布
奈良・橿原移住セミナー	12/8（日）	奈良まほろば館	橿原市	橿原市	8名	コースター配布
奈良マラソン2024	12/7（土）、12/8（日）	ロート奈良鴻池パーク（奈良市鴻池運動公園） 奈良市法蓮佐保山4丁目5－1	一般財団法人なら陸上定規会	明日香村	11,000人	コースター360部配布
飛鳥・藤原まるごと博物館検定	12/14(土)	中央公民館・帝塚山大学	公益財団法人　古都飛鳥保存財団	明日香村	200名	参加者へ配布
デジタルメッセ奈良	1/24（金）	奈良コンベンションセンター	奈良県	日本遺産協議会	未公表	パンフレット配布200部
イナコレ2024	2/1(土)	シティプラザ大阪２F旬	認定NPO法人ふるさと回帰支援センター　大阪ふるさと暮らし情報センター	明日香村	150名	パンフレット設置
日本列島心のふるさと観光展	2/7(金)～2/21(金)	みちまちスクエア（大阪駅付近地下広場）	NPO日本列島夕陽と朝日の郷づくり協会	明日香村	600名	パンフレット参加者へ配布
世界遺産登録推進イベント「飛鳥・藤原の宮都」	2/8(土)	かしはら万葉ホール	世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会	明日香村	500名	パンフレット参加者へ配布
日本遺産の日	2/15（土）·2/16（日）	お東さん広場（東本願寺前市民緑地） 京都府京都市下京区常葉町他	日本遺産事務局	協議会	未公表	粘土ワークショップ200名 パンフレット・グッズ等の配布500部
ならぐみ	2/24（月・祝）	奈良公園バスターミナル	奈良公園バスターミナル	協議会	100人	粘土ワークショップ50名 パンフレット・グッズ等の配布100部
飛鳥ハーフマラソンフェスタ	3/9（日）	国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区	明日香村	協議会	3,000人	粘土ワークショップ150名 パンフレット・グッズ等の配布200部

令和6年度　日本遺産関連イベント等一覧

日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会

【講演会】

項　　目　（演題）	開催日（期間）	開　催　場　所	主催者等	種　別	参加者	備　考
飛鳥史学文学講座	4/１４（日）、5/１２（日）、6/9（日） 7／１４（日）、8／4（日）、9／8（日）	明日香村中央公民館	関西大学、明日香村	明日香村	100名	日本遺産のＰＲ 明日香村長　森川　裕一による公演
【奈良まほろばソムリエの会講座】飛鳥地域認定プロガイドが解説～飛鳥の歩き方「万葉歌編」～	7/6(土)	奈良まほろば館	奈良ソムリエの会	明日香村	100名	参加者へパンフレット配布
かんだい明日香まほろば講座	7/6（土）、10/5（土）、1/１１（土）	津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス　広瀬記念ホール	奈良県明日香村／関西大学	明日香村	770名	日本遺産のＰＲ
令和6年度「奈良県教育の日」教育講座	11/17(日)	中央公民館	奈良県退校園長会	明日香村	150名	参加者へパンフレット配布
明日香村文化協会講座	１２/8（日）、2/２（日）	明日香村内	明日香村	明日香村	50名	日本遺産のＰＲ 明日香村文化財課 課長補佐　西光　慎治 による講演
第3回世界遺産登録シンポジウム 「３つの世界遺産と奈良の世界遺産の未来」	1/30(木)	奈良県社会福祉総合センター	現代奈良協会、なら文化交流機構、奈良新聞社	明日香村	200名	参加者へパンフレット配布
東京まほろば館講座	２/２（日）、３／３０（日）	奈良まほろば館	奈良県	明日香村	100名	チラシ、グッズの配布 明日香村文化財課 課長補佐　西光　慎治 係長　長谷川　透による講演
西の明日香村フォーラム	2/22（土）	岡山県真庭市	明日香村	明日香村	200名	チラシ・グッズの配布 日本遺産のＰＲ 明日香村文化財課 課長補佐　西光　慎治 による講演
歴史講座イベントin東京 辰巳俊輔ナビ 世界遺産登録間近「飛鳥・藤原の宮都」の実像に迫る！	２／２３（日）	東京都	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	67名	日本遺産のＰＲ
奈良県ユネスコ連絡協議会公開講座	3/15(土)	かしはら万葉ホール 5階　レセプションホール	奈良県ユネスコ連絡協議会、飛鳥・藤原ユネスコ協会	明日香村	140名	参加者へパンフレット配布
まるごと博物館フォーラム	3/20（木・祝）	東京都千代田区有楽町 有楽町よみうりホール	明日香村	明日香村	550名	チラシ・グッズの配布 帝塚山大学教授　清水　昭博氏 作家　澤田　瞳子氏
発掘調査報告会	３／３１（日）	明日香村内	明日香村	明日香村	200名	チラシ・グッズの配布 関西大学教授　井上　主税　氏 文化財課　課長　小池　香津江 文化財課　係長　長谷川　透

【常設案内展示】

項　　　目	開催日（期間）	開　催　場　所	主催者等	種　別	参加者	備　考
かしはら観光ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ神宮前	4/1(月)～3/31(月)	かしはら観光ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ神宮前	橿原市観光協会	橿原市観光協会	13,493名	センター内の壁面に日本遺産「飛鳥を翔た女性たち」のパネルを掲出
道の駅「飛鳥」	4/1(月)～3/31(月)	道の駅「飛鳥」 総合案内所「飛鳥びとの館」	一般社団法人 飛鳥観光協会	飛鳥観光協会		日本遺産を前面に出した案内所で常設パネル展示及びPR
明日香村埋蔵文化財展示室	4/1(月)～3/31(月)	明日香村埋蔵文化財展示室	明日香村	明日香村		日本遺産を前面に出した展示室で常設パネル展示及びPR
明日香村民俗資料館	4/1(月)～3/31(月)	明日香村民俗資料館	明日香村	明日香村		常設パネル展示及びPR
高取町観光案内所「夢創舘」	4/1(月)～3/31(月)	高取町観光案内所「夢創舘」	一般社団法人 高取町観光協会	高取町観光協会		日本遺産を全面に出し、 ポスターやパンフレットによるPR
リベルテホール	4/1(月)～3/31(月)	リベルテホール	リベルテホール	高取町		日本遺産の旗や パンフレット、映像など

【旅行関連】

項　　　目	開催日（期間）	開　催　場　所	主催者等	種　別	参加者	備　考
古都・飛鳥散歩　仏教伝来・善信尼物語を巡る	4/20(土)	国営飛鳥歴史公園甘樫丘地区他	国営飛鳥歴史公園	明日香村	5名	歴史公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」運営企画
歴史のまちウォーク 「日本国創成と女帝たち故郷、「飛鳥」をめぐる」	5/15(水)、5/26(日)	牽牛子塚古墳他	歴史街道倶楽部	明日香村	25名/回	
高取城ナイトウォーク「２０２５秋」	11月中旬～12月頭のうち一日を予定	高取城	一般社団法人 高取ニューツーリズム協会	高取ニューツーリズム協会	定員20名	
【歴史】辰巳ナビ同行　博物館で知ろう！真夏の奈良・大阪古墳めぐり　2日間	7/27（土）、28（日）	大阪市・明日香村	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	12名	
【歴史】目指せ世界遺産！「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」日本国誕生の記憶 明日香・桜井・橿原2日間	5/11（土）、5/12（日）	明日香村・桜井市・橿原市	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	23名	
【歴史】<ｳｫｰｷﾝｸﾞ>藤原宮・平城宮 古の奈良二都市 悠久の歴史旅 2日間	10/19（土）、10/20（日）	橿原市・奈良市	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	12名	
【歴史・ウォーキング】辰巳ナビ同行　飛鳥に残る古代の痕跡の謎に迫る！明日香村をさらに大満喫　2日間	11/30（土）、12/1（日）	明日香村・桜井市・橿原市	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	16名	
【歴史】<ｳｫｰｷﾝｸﾞ>大和の古墳めぐり第1回 鶯塚古墳・箸墓古墳と明日香村へ13の古墳めぐり 2日間	12/14（土）、12/15（日）	明日香村	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	11名	
【歴史・ｳｫｰｷﾝｸﾞ】近畿文化会×CT 歴史入門旅 特別編 「壬申の乱」 関ヶ原・吉野・飛鳥・近江大津 3日間	8/23(金)、8/24（土）、8/25（日）	関ヶ原・吉野・飛鳥地域・近江大津	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	20名	
【歴史】<ｳｫｰｷﾝｸﾞ>飛鳥に残る聖徳太子と古墳の謎に迫る！聖徳太子生誕の地 明日香村たっぷり大満喫 2日間	4/21(日）～3/31（日）	明日香村	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	453名	
【歴史】<ｳｫｰｷﾝｸﾞ>秋の飛鳥ウォーク　謎の多い奇石と古墳へ　ロマンとミステリー明日香村　2日間	11/3(日）、11/4（月）	明日香村	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	23名	
【歴史】＜大和八木集合・新大阪解散＞辰巳ナビ同行　博物館で知ろう！真夏の奈良・大阪古墳めぐり　2日間	7/27(土）、7/28（日）	関ヶ原・吉野・飛鳥地域・近江大津	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	5名	
【歴史】＜大和八木発着＞「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」日本国誕生の記憶 明日香・桜井・橿原2日間	5/11(土）、5/12（日）	明日香村・桜井市・橿原市	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	5名	
【歴史】<大和八木集合・大和西大寺解散><ｳｫｰｷﾝｸﾞ>藤原宮・平城宮 古の奈良二都市 悠久の歴史旅 2日間	10/19(土）、10/20（日）	橿原市・奈良市	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	5名	
【歴史】＜大和八木発着・ｳｫｰｷﾝｸﾞ＞辰巳ナビ同行　明日香村をさらに大満喫　2日間	11/30(土）、12/1（日）	明日香村	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	1名	
【歴史】<ｳｫｰｷﾝｸﾞ>近鉄奈良集合 大和の古墳めぐり第1回　箸墓古墳と明日香村へ13の古墳めぐり 2日間	12/14(土）、12/15（日）	明日香村	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	4名	
【歴史・ｳｫｰｷﾝｸﾞ】<岐阜羽島集合>近畿文化会特別編 「壬申の乱」 関ヶ原・吉野・飛鳥・近江大津3日間	8/23(金)、8/24（土）、8/25（日）	関ヶ原・吉野・飛鳥地域・近江大津	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	2名	
【歴史】＜大和八木発着・ｳｫｰｷﾝｸﾞ＞飛鳥に残る古墳の謎！聖徳太子生誕の地 明日香村たっぷり大満喫 2日間	4/21(月）～3/31（日）	明日香村	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	13名	
【歴史】＜大和八木発着・ｳｫｰｷﾝｸﾞ＞秋の飛鳥ウォーク謎の多い奇石と古墳　ロマンとミステリー明日香村2日間	11/3(日）、11/4（月）	明日香村	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム株式会社	3名	

■「明日香村まるごと博物館フォーラム」開催状況

	会場名	開催日	会　場	参加人数	テ　ー　マ	講　　師
1	大阪会場	14.8.11	大阪国際交流センター	860人	キトラ古墳壁画 「四神・十二支像に秘められた思想」	河上　邦彦（奈良県立橿原考古学研究所副所長）　上村　淳之（京都市立芸術大学副学長） 網干　善教（関西大学名誉教授）
2	広島会場	14.12.1	広島JAビル	450人	亀形石造物 「よみがえる斉明女帝の水と石の王朝」	辰己　和弘（同志社大学助教授）　金子　裕之（奈文研平城宮跡発掘調査部長） 千田　稔（国際日本文化研究センター教授）
3	名古屋会場	15.2.16	名古屋国際会議場	650人	最古の貨幣 「東アジアの帝国を目指した古代日本の実像」	松村　恵司（奈文研飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第２調査室長） 栄原永遠男（大阪市立大学教授）　門脇禎二（京都府立大学名誉教授）
4	東京会場	15.6.29	よみうりホール	1,000人	「飛鳥時代の精神生活」	水野　正好（奈良大学教授）　田辺　征夫（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長） 上野　誠（奈良大学助教授）
5	神戸会場	15.8.24	神戸国際会議場	600人	「古代東アジアの中の飛鳥」	猪熊　兼勝（京都橘女子大学教授）　絹谷　幸二（東京芸術大学教授） 永島暉臣慎（国際文化研修所長）
6	福岡会場	16.2.22	都久志会館	600人	「壬申の乱と天武・持統の実像」	菅谷　文則（滋賀県立大学教授）　和田　萃（京都教育大学教授） 武田佐知子（大阪外国語大学教授）
7	横浜会場	16.6.27	横浜新都市ホール	900人	「飛鳥京に眠る貴人たち」	白石太一郎（奈良大学教授）　井沢　元彦（作家）
8	京都会場	16.11.28	京都シルクホール	450人	「飛鳥時代の仏教」	中西　進（京都市立芸術大学学長）　豊田　有恒（作家）
9	高松会場	17.2.20	サンポートホール高松	350人	「飛鳥京を歩いた渡来人たち」	木下　正史（東京学芸大学教授）　里中満智子（漫画家）
10	東京会場	17.8.21	よみうりホール	700人	「飛鳥発　歴史遺産をどう活かすか」	川野邊　渉（東京文化財学研究修復材料研究室長） 佐古　和枝（関西外国語大学教授）　西村　幸夫（東京大学教授）
11	東京会場	18.7.22	よみうりホール	1,100人	「発掘された蘇我氏の飛鳥」	吉村　武彦（明治大学教授）　水野　正好（奈良大学名誉教授）
12	札幌会場	19.8.18	札幌サンプラザ コンサートホール	500人	「飛鳥時代の異境の人々」	工藤　雅樹（福島大学名誉教授・前東北歴史博物館長） 和田　萃（京都教育大学名誉教授）
13	大阪会場	20.8.23	エルおおさか エルシアター	800人	「古代の飛鳥と難波」	里中満智子（マンガ家）　中尾　芳治（元帝塚山大学教授） 積山　洋（大阪歴史博物館企画広報課課長代理）
14	福岡会場	21.7.25	エルガーラホール	500人	「装飾・壁画古墳の魅力-高松塚と九州の古墳の保存と活用」	三輪　嘉六（九州国立博物館長）　松村　恵司（文化庁文化財鑑査官） 石山　勲（前九州歴史博物館参事）
15	名古屋会場	22.7.10	東建ホール	400人	「飛鳥と渡来人～古代国家を支えた人々」	亀田　修一（岡山理科大学教授）　木下　正史（東京学芸大学特任教授）
16	福岡会場	23.7.30	九州国立博物館 ミュージアムホール	320人	「斉明天皇と飛鳥～牽牛子塚古墳の発掘から」	白石太一郎（近つ飛鳥博物館館長）　上野　誠（奈良大学教授）
17	東京会場	24.7.14	よみうりホール	700人	「高松塚古墳壁画発見４０年～保存と活用～」	松村　恵司（奈良文化財研究所 所長）　建石　徹（文化庁文化財部古墳壁画対策調査官）
18	島根会場	25.7.14	島根県民会館　中ホール	250人	「古代の飛鳥と出雲～斉明天皇とその時代～」	和田　萃（京都教育大学名誉教授）　黒田　龍二（神戸大学工学研究科教授）
19	鹿児島会場	26.7.21	かごしま県民交流センター 大ホール	300人	「隼人と飛鳥～７世紀の日本列島」	田辺　征夫（奈良県立大学特任教授）　永山　修一（ラ・サール学園教諭）
20	東京会場	27.8.23	よみうりホール	900人	「飛鳥と蘇我氏～都塚古墳をめぐって～」	千田　稔（奈良県立図書情報館館長）　仁藤　敦史（国立歴史民俗博物館教授） 米田　文孝（関西大学文学部教授）
21	東京会場	28.7.3	銀座ブロッサム	700人	「推古女帝の時代～飛鳥を翔た女性たち～」	里中満智子（マンガ家）　吉村　武彦（明治大学名誉教授）
22	東京会場	29.7.23	よみうりホール	600人	「飛鳥の女性と仏教」	清水　昭博（帝塚山大学教授）　澤田　瞳子（作　家）
23	東京会場	30.8.26	明治大学アカデミーホール	1,000人	「蘇我氏の古墳」	今尾　文昭（関西大学非常勤講師）　吉村　武彦（明治大学名誉教授） 若狭　徹（明治大学准教授）
24	東京会場	1.8.4	よみうりホール	1,000人	「大化の改新」	吉村武彦（明治大学名誉教授）　鶴見泰寿（橿原考古学研究所附属博物館指導学芸員） 相原嘉之（明日香村文化財課長）　長谷川　透（明日香村文化財課主任技師）
25	オンライン	3.12.24 ～4.1.31	収録会場・明日香村健康福祉センター「たちばな」）	1,255人	「飛鳥の宮殿から飛鳥京へ」 「世界遺産登録と中尾山古墳」	猪熊兼勝（京都橘大学名誉教授） 西光慎治（明日香村教育委員会文化財課課長補佐）
26	東京会場	4.11.20	よみうり大手町ホール	300人	高松塚古墳壁画発見五十周年記念 第26回明日香村まるごと博物館フォーラム 「未来へつなぐ高松塚」	森岡　秀人（奈良県立橿原考古学研究所共同研究員） 建石　徹（国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター長）
27	大阪会場	6.2.23	エル大阪	200人	キトラ古墳壁画発見４０周年記念～未来へつなぐキトラ～	来村　多加史　（阪南大学教授） 建石　徹（国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター長）
28	東京会場	7.3.20	有楽町よみうりホール	550	聖徳太子と飛鳥	清水　昭博（帝塚山大学教授） 澤田　瞳子（作家）
				17,385人		

５　ま　と　め

（１）学校教育について

学校教育では、「自立して社会を生き抜く力」を持った子どもたちを育てることを教育目標としています。この目標達成のため、幼小中の全教職員が校種を超えて共通理解を図り、連携・協力することで、地域住民や保護者と共に、「15 歳の自立をめざす幼小中一貫教育」の実現に向けた取り組みを進めています。

また、文部科学省が示す新しい学習指導要領では、予測困難な時代を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力の育成が重視されています。これを受け、私たちはこれまでの研究・推進体制のスマート化を図りながら、新たな研究テーマとして「STEAM 教育の基盤となる学力の育成～『問題解決能力』の向上を目指して～」を設定しました。 このテーマのもと、実践研究を継続し、様々な教育活動に取り組んでいます。

さらに、授業における ICT 活用を円滑に進める環境づくりとして、教職員の ICT 活用を支援する ICT 支援員を配置し、サポート体制の充実を図っています。また、奈良県読解力向上プロジェクトに参加し、リーディングスキルの視点を取り入れた汎用的基礎読解力の向上を目指した授業改善を進めています。

地域との連携においては、明日香郷土学習副読本（前期用・中期用・後期用）の活用と地域による学習支援を明記した郷土学習プログラム Version２に基づき、一層系統性・継続性を重視した郷土学習を実施しています。地域連携コーディネーターと連携することで、学校・地域コミュニティ活動の課題を明確にすることもできました。

そして、子育て支援策として、保育料や給食費の負担軽減、入学祝金の支給といった経済的支援、放課後児童クラブの継続など、子どもや子育て中の保護者にとって安心・安全な環境づくりに取り組み、子どもを産み育てやすい村づくりを推進しています。

教育施設については、園児・児童・生徒の安心安全な教育環境の充実を図ることを目的に、施設の状況に応じて改修工事や設備の更新を行いました。今後の児童生徒数の推計や将来にわたる財政負担を考慮しつつ、安心安全な学習環境を確保するため、引き続き計画的な施設改修に努めます。

（２）生涯教育について

明日香村では、第 5 次明日香村総合計画が掲げる「『いつまでも住み続けたい』そう思える村」そして「五感で体感できる『明日香まるごと博物館』」という将来像の実現に向け、村民一人ひとりがそれぞれのライフステージにおいて、あらゆる機会と場所で互いに学び、支え合い、高め合えるよう、生涯学習を推進しています。具体的には、芸術・文化の振興、スポーツを通じた魅力発信、地域連携と次世代育成など多岐にわたる分野で事業を展開し、その成果を地域社会へ還元することを目指しています。

生涯学習とスポーツの分野では、スポーツ協会を中心に、多くの村民が参加・交流できるイベントを継続的に開催しています。また、NPO 法人楽スポあすかは、多様なスポーツ教室やクラブ活動を提供することで、村民の健康維持と体力向上に大きく貢献しています。加えて、小中学校の体育授業や部活動の支援も行っており、地域全体のスポーツ振興に寄与しています。

社会体育施設は、村民のレクリエーションや健康増進の拠点として機能しており、利用者数は増加傾向にあります。さらに、飛鳥ハーフマラソンは、約 3,000 名の参加者を集め、2 年連続で「大会 100 撰」に選出されるなど、明日香村の魅力を国内外に発信する上で大きな役割を果たしています。

中央公民館では、史学文学講座や多様な単発・年間講座を通じて、村民に安定した幅広い学習機会を提供しています。

図書室は健康福祉センター内への移転後、来室者数が大幅に増加し、令和 6 年度には 20,200 名を記録しました。多世代が交流する地域コミュニティの拠点として、その役割を強化しています。

文化分野では、文化祭（芸能大会・美術展）を定期的に開催し、今年は第 11 回となる「明日香の匠展」も盛況のうちに終えることができました。特に、飛鳥時代に伝来したとされる古代伎楽の再現プロジェクトでは、「明日香子ども伎楽教室」や「伎楽お面づくり教室」といった体験プログラムを実施し、実演に向けた取り組みを進めるとともに、新たな文化創造にも積極的に挑戦しています。

これらの生涯学習やスポーツに関する取り組みに対しては、学識経験者からも、今後の新しい事業展開へ大きな期待が寄せられています。

（３）文化財について

本村の文化財は、「日本国」誕生の時代の政治・文化を解明する上で非常に重要なものです。

村内には、国指定の史跡が２１箇所あり、うち３箇所が特別史跡に指定されています。しかし、これらの遺跡は村全体の一部であり、実際には村内全域に貴重な遺跡が眠っているといっても過言ではありません。また、ここから発掘された出土品も、遺跡の価値を高めています。村内では高松塚古墳壁画やキトラ古墳壁画、岡寺の木芯乾漆義淵僧正坐像とともに国宝に指定されています。

このことから、村の貴重な文化財を次の世代に引き継ぐためには、発掘調査により遺跡の範囲や価値を明らかにする必要があり、奈良文化財研究所や橿原考古学研究所などの関係機関と連携・調整を図り、計画的かつ重点的に学術調査に取り組みます。

令和６年度には、重要遺跡の実態解明に向け、甘樫丘遺跡群の発掘調査を引き続き実施しました。また、発掘調査などにより明らかとなった遺跡については、今後適切な保存対策を講じるとともに、『本物を見られる』『本物を感じられる』ことに重点を置き、遺跡整備や各種コンテンツの作成、講演会等の開催など、本物の文化財に接する機会などの充実を図り、来訪者が古代飛鳥を体感できる取り組みを推進します。飛鳥宮跡や飛鳥京跡苑池については奈良県とともに史跡指定や公有化等を進め、飛鳥時代を体感できる拠点として歴史展示を推進しています。整備事業が令和４年２月に完了した牽牛子塚古墳については、西飛鳥周辺の活性化に繋げる拠点としての機能を高めるとともに、地域の誇りに繋げる取り組みとして牽牛子の名前の由来となったアサガオ栽培を通じたアサガオプロジェクトも現在、進行中で、共用開始後の来訪者数が１２万人以上に上っています。中尾山古墳では史跡の確実な保存と活用に向けた整備事業の実施に向け、基本設計を行いました。さらに、国が設置予定の高松塚古墳壁画の保存管理公開活用施設については、本物の壁画公開のみならず、明日香まるごと博物館づくりの一環として、飛鳥地域のゲートウェイとなる施設となるよう、引き続き働きかけを行ってまいります。

また、「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録については、令和６年９月に国内推薦候補に選定され、令和７年１月に日本国政府から推薦書がユネスコに提出されました。構成資産候補については史跡の公有化などの保護措置を継続するとともに、登録後を見据えた受入体制の強化や世界遺産の価値を効果的に伝達するためのインタープリテーション及びプレゼンテーションの実施などに取り組んでまいります。

６　学識経験者の知見の活用

教育委員会が行った点検・評価についてその客観性を確保するため、２名の学識経験者を外部評価委員（明日香村教育事務評価委員）として委嘱し、点検・評価の内容についてご意見をいただきました。

【評価委員の意見】

学校教育においては、幼稚園から小学校、そして中学校へとつながる幼小中一貫教育の取り組みが着実に前進していることがわかりました。また、学校だけでなく、保護者・地域とも連携・協働し、明日香の子どもを村ぐるみで育てる環境がいよいよ整ってきたと感じます。

一方、教育の充実や児童生徒の学力の向上、いじめや不登校の問題解消に加え、教員の確保や働き方改革など、課題は山積しています。引き続き関係各方面と連携・協働しながら取り組みを進めていただくことを願います。

そして、生涯学習については、多世代・多分野にわたる「学び」の機会を提供し、地域全体の活性化に貢献していくことが期待されます。また、スポーツ振興は、住民の健康増進と地域活性化、そして村の魅力発信に重点を置いて進められており、飛鳥ハーフマラソンについては、明日香の魅力を広く発信できる好機とし、村の発展に寄与できるイベントとして進められています。

生涯学習やスポーツについては、これまでの経験で培った方法等を取り入れ、今後、新しい事業を展開されることを期待します。

文化財に関しては、「飛鳥・藤原の宮都」がユネスコに推薦され、世界遺産登録へ向けて大きく前進しています。整備が完了した牽牛子塚古墳をはじめとして、史跡整備や調査が計画的に行われ、適切な保存と活用について様々な議論や取り組みを進められています。史跡整備後も周辺の自然環境や文化資源とも連動した活用方法の検討を重ねられており、世界遺産登録推進に向け大きな推進力となるものと考えますので、より一層の取り組み強化をお願いします。

令和　７年　８月　４日

明日香村教育事務評価委員　　木　村　規　雄

明日香村教育事務評価委員　　北　岡　佳　代